

「思春期における性行動に関する研究」

# 妊娠した場合の医学的・社会的支援策

——若年出産者が抱える諸問題を解決するために——

平成5年度厚生省心身障害研究『REPRODUCTIVE HEALTHに関する研究』

堀口班・黒島グループ報告資料

分担研究者	堀口	雅子
研究協力者	黒島	淳子
〃	安達	映子
〃	大坂多恵子	
〃	兼松左知子	
〃	庄司	洋子
〃	長池	博子
〃	翠川	洋子
〃	村井	美紀
〃	山中	京子
〃	湯沢	直美

1994年2月

## 目 次

はじめに	3
若年出産をめぐる諸問題	7
—— 若年出産者調査と非若年出産者調査の比較を中心にして ——	
(1)若年出産者調査の集計結果	
(2)非若年出産者調査の集計結果	
(3)非若年出産者との比較からみた若年出産者の特性	
ハイリスク若年出産者の事例	33
—— 医療・社会福祉機関及び施設の利用実態から ——	
資料（調査票）	41
(1)若年出産女性の生活と育児に関する調査	
(2)はじめての出産と育児に関する調査	

## はじめに

この研究は、平成5年度厚生省心身障害研究「REPRODUCTIVE HEALTH に関する研究」を構成する分担研究「思春期における性行動に関する研究」（分担研究者・堀口雅子）の一部として、堀口雅子のもとで、黒島淳子ほか9名の研究協力者からなる研究グループ（黒島淳子・安達映子・大坂多恵子・兼松左知子・庄司洋子・長池博子・翠川洋子・村井美紀・山中京子・湯沢直美）によって行われたものである。なお、調査の一部は、長野県松本保健所（所長・翠川洋子）の協力を得て、そこにおける研究グループとの共同調査として実施した。また、調査研究全体のまとめにあたっては、杉田恵美（東洋大学大学院社会学研究科）・原史子（立教大学大学院社会学研究科）の協力を得ている。

### 1. 研究テーマ

このグループが担当するのは、「思春期における性行動」とのかかわりで生じる若年女性の妊娠・出産、とりわけ、妊娠して出産に至るケースが直面する固有の問題に関することである。ここでは、そのテーマを「若年出産者が抱える諸問題と社会的支援の必要性」と設定した。

### 2. 研究の目的

若年出産者のなかには、妊娠・出産・育児の経過のなかで著しい困難を抱えるものが存在する。本研究では、その実態を明らかにするとともに、そうした事態に至る要因をさぐり、諸困難の緩和・解決・さらには予防のための社会的方策を導き出すことをねらいとしている。

### 3. 研究の視点

若年出産者のかかえる困難には、主として医学的な問題と社会的な問題とがある。前者についてはすでに多くの先行研究があり、それらの問題に対処するための一定の方向性が明らかにされているのに対して、後者については実態も充分には明らかにされておらず、したがって、社会的方策の検討は著しく遅れている。そこで、本研究においてはとくに若年出産者のかかえる困難のもつ社会的な側面に力点をおくことにした。

### 4. 研究の仮説と枠組

- (1)若年者の妊娠・出産にともなう固有の医学的問題は、多分に社会的問題（当事者の社会的立場・生活環境・意識の問題）とリンクしていると考えられる。
- (2)若年者の妊娠・出産にともなう社会的問題は、若年者が妊娠・出産という事態に対処するうえでまだ社会的に未成熟であることに加えて、一定の状況のもとではその妊娠・出

産そのものが社会的に受容・支持されにくいというところに起因している。

- (3)若年出産のなかでもとくに困難をかかえる可能性が高いのは、一定の準備状態がないままに妊娠・出産に至る場合である。若年者における予定外の（望まない）妊娠・出産がどのような状況のもとで生じやすいかを探るためには、成育歴（家庭生活・学校生活）との関係を検討してみる必要がある。また、若年者の妊娠・出産・育児における諸困難の要因になっていると考えられる社会的な未成熟さや社会関係上の摩擦は、同時に、無防備な状態での妊娠・出産の一因にもなっている可能性があり、このことは、思春期教育の課題として位置づける必要がある。
- (4)若年者が妊娠・出産した場合には、当事者自身に出産・育児の条件を整える力量が充分でないことが多いが、当事者の状況ばかりでなく、親族をはじめとする周囲の支持・援助のありかたによって、状況は大きく異なってくる。逆に、若年者の妊娠・出産・育児を困難にする要因の一つに、周囲の否定的・批判的な反応があると考えられる。そうした反応は、とくに非婚（未婚）者に対して強く見受けられる。また、中学・高校在学者に対しては、妊娠・出産はもちろん、結婚そのものも受容されにくく、妊娠による学業中断という事態を招きやすい。
- (5)非婚（未婚）者として出産することの困難は、大別して二つある。その一つは、周囲の否定的・批判的な反応であり、それは妊娠・出産・育児のすべての過程において当事者に大きな苦痛をあたえることになる。他の一つは、こうした苦痛や負担を主として（あるいは専ら）妊娠・出産する女性が負うことになり、出産後は母子家庭として女性のみが育児責任を負うことになりがちなことである。
- (6)以上のように、本研究においては、成長の途上にあるものとしての若年出産者の社会的な未成熟さばかりでなく、若年出産者がおかれている社会的位置の特殊性にも注目しながら、私的な支援体制や社会的制度の利用状況が、当事者の直面する諸問題を解決あるいは緩和するうえでどのような意義をもつのかを点検する。こうした仮説を検証するためには、若年出産者が妊娠・出産・育児に関して示す一般的な特性を明らかにすると同時に、若年出産者のうちでもとくに重大な困難を抱えて専門的な機関・施設を利用するに至ったグループ（ハイリスク若年出産者）の事例を詳細に検討する必要がある。

## 5. 調査の構成

以上のような問題意識と仮説に立つ本研究は、次の3つの調査から成り立っている。

### (1)若年出産者を対象とする調査

「若年出産女性の生活と育児に関する調査」（平成4年度実施）

—— 特定地域における20歳未満出産者に対する訪問・聞き取り調査 ——

(2)非若年出産者を対象とする調査

「はじめての出産と育児に関する調査」(平成5年度実施)

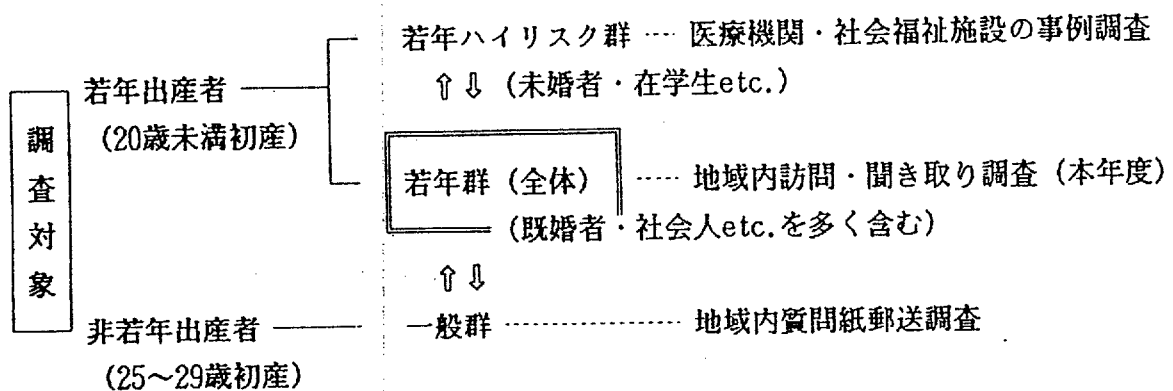
—— 特定地域における25～29歳初産者に対する質問紙調査 ——

(3)ハイリスク若年出産者を対象とする調査

「ハイリスク若年出産者の事例研究」(平成5年度実施)

—— 乳児院・婦人保護施設における若年出産者に対する事例調査 ——

上記(1)、(2)、(3)の相互の関連は、下記のとおりである。(1)と(2)は同一保健所管内の調査として実施し、比較対照して若年出産者の特性を明らかにすることをねらっている。また、若年出産者のうちでも、とくに重大な困難を抱えたハイリスク若年出産者の機関・施設利用状況を中心とする事例調査を行い、社会的支援の意義と課題を明らかにしようとした。



# 若年出産をめぐる諸問題

## — 若年出産者調査と非若年出産者調査の 比較を中心にして —

### (1)若年出産者調査の集計結果

#### II. 調査対象者の諸特性

ここでは、保健婦による「訪問・聞き取り調査」により、一定地域内における若年出産者の妊娠・出産と育児の実態、および社会的支援の実態を把握把握することを目的にしている。

この調査の対象者は平成元年から5年までに10代で出産した女性94名であった。今回「訪問・聞き取り調査」ができたのは上記対象者のうち41名で、できなかったものが53名である。できなかった理由は、「拒否」18名、「転居先不明」17名、「転居により面接不能」7名、「留守」5名、「その他」5名、無回答1名である。

回答者である母親の面接は、36名が自宅で、5名がその他の場所で行われた。面接時に同席者がいなかったのは16名で、13名のものは同席者がいた。同席者の有無が不明のものは12名である。

母親の出産時年齢は16才が1名、17才が4名、18才が15名、19才が21名で、平均年齢は18.3才である。相手(子の父)の年齢は18才から40才までの年齢の幅があり、最頻年齢値は21歳、平均年齢は23.2才である。子どもの人数は、「1人」が36名であるが、「2人」というものも5名いる。

#### II. 面接調査の回答結果

ここでは、面接調査に協力してくれた41名の回答の結果を各設問ごとに具体的に述べていく。( )内の数字は41名を100%とした場合の割合を示す。

##### 1. 妊娠と出産の経過

今回の妊娠に気付いた時期は、「妊娠2ヵ月」というものが22名(53.7%)、「3ヵ月」というものが13名(31.7%)、「4～5ヵ月」というものが6名(14.6%)であった。妊娠後最初に受診した時期は、「妊娠2ヵ月」が12名(29.3%)、「3ヵ月」が11名(26.8%)、「4～5ヵ月」が11名(26.8%)、「6～7ヵ月」が5名(12.2%)、「妊娠8ヵ月以降」が2名(4.9%)で、全体では気付いた時期と受診した時期にずれがみ

られる。

最初の受診は妊娠に気付いてからどれくらい経過してからかという質問には、「気付いてすぐ」と答えているものが26名(63.5%)で、他の15名は一定の期間をおいてから受診している。その期間は、「1ヵ月くらい」というものが4名(9.8%)、「2ヵ月くらい」というものが6名(14.6%)、「3ヵ月以上」というものが5名(12.2%)である。

母子手帳の交付をうけたのは「妊娠5ヵ月以前」が26名(63.4%)、「妊娠6～9ヵ月」が12名(29.3%)、「分娩時または分娩後」が2名(4.9%)であった。また、「覚えていない」と答えたものも1名(2.4%)いる。

妊娠してから医師の診察を「医師の指示どおり定期的に受けていた」ものは34名(82.9%)であるが、「自分で判断し適当な間隔で受けていた」ものが3名(7.3%)、「数回しか受けなかった」ものが2名(4.9%)、「ほとんど受けなかった」ものが2名(4.9%)と、妊娠中きちんと医師の診察を受けていないものが7名いた。診察を受けなかった理由としては、「どこに行けばいいかわからなかった」(1名)、「医者に行くのがいやだった」(1名)、「費用のことが心配だった」(1名)、その他(4名)と答えている。妊娠中に母親学級を受講したものは16名(39.0%)、受講しなかったものは25名(61.0%)である。受講したもののうち、「数回からなるコースを修了した」ものは11名(26.8%)、「コースの一部だけを受講した」ものは3名(7.3%)、「1回だけの学級を受講した」ものは2名(4.9%)であった。母親学級を受講したと回答したものにどこで受講したかをきいたところ、「保健所・市町村など」が7人、「病院・医院など」が11名である。(複数回答)

妊娠中に心配になるような身体の問題や異常が「とくになかった」ものが24名(58.5%)、「あった」ものは17名(41.5%)で約4割が問題や異常があったと答えている。また、分娩前後に心配になるような身体の問題や異常が「とくになかった」ものが36名(87.8%)と9割近くが問題や異常がない分娩である。しかし「あった」ものも5名(12.2%)いた。

## 2. 妊娠・出産をめぐる状況

妊娠がわかった時、回答者と相手(子の父)の関係は、「結婚(届出)していた」ものが9名(22.0%)、「同棲していた」ものが7名(17.1%)で、あわせて16名(39.0%)は相手と同居していた。また、「正式に婚約していた」ものが2名(4.9%)、「二人のあいだで結婚の約束があった」ものが8名(19.5%)で、10名(24.4%)はなんらかの結婚の約束があった。残りの15名(36.6%)は「恋人の関係だった」とこたえている。

妊娠した時、回答者は「就労」していたものが15名(36.6%)、「無職(家事手伝い・主婦など)」が15名(36.6%)である。「高校生」(7名)、「大学生」(1名)、勤労学生(=「就労+通学」1名)などの学生・生徒が9名(22.0%)、その他が2名(4.9%)いた。相手の男性は「大学生」は1名(2.4%)であとの40名(97.6%)は「就労」していた。

妊娠がわかった時の回答者の気持ちは、「うれしさと当惑が半々だった」とこたえたものが一番多く19名(46.3%)であった。また、「うれしかった」(8名、19.5%)とこたえたものがある一方、「とてもショックだった」(5名、12.2%)、「やむをえないと

いう気持ちだった」(4名、9.8%)というものもあり、妊娠について否定的な気持ちと肯定的な気持ちをもったものが約半数づついる。また、「あまりピンとこなかった」というものが4名(9.8%)、その他が1名(2.4%)いる。

妊娠がわかった時、中絶について「全く考えなかった」ものは19名(46.3%)にすぎない。残りの22名(53.7%)はなんらかのレベルで中絶のことを考えている。そのレベルは、「ちらと頭をかすめた」というものが11名(26.8%)、「中絶すべきかどうか迷った」とういものが7名(17.1%)、「中絶したいと真剣に考えた」ものが4名(9.8%)であった。このように少しでも中絶を考えたものが産むことになったのは、「中絶のことはすぐ頭から消えた」(4名)、「徐々に産もうという気持ちに変わった」(10名)、「相手(子の父)から産むように強くすすめられた」(3名)、「中絶するのがこわかった」(2名)、「周囲から産むよう強くすすめられた」(1名)という理由による。

相手(子の父)に妊娠を知らせた時に、「うれしそうだった」というものは15名(36.6%)であった。17名(41.5%)は「うれしさと当惑がまじっていた」気持ちであったが、5名(12.2%)は「どういう気持ちかわからなかった」。「産んでほしくないようだった」は2名(4.9%)、「はっきり中絶をのぞんでいた」、その他が各1名(2.4%)いた。

回答者の親が妊娠を知ったときの反応は、母親の場合「しかたがないという感じだった」ものが一番多く16名(39.0%)であった。「うれしそうだった」という母親は7名(17.1%)「うれしさと当惑がまじっていた」という母親が4名(9.8%)である。「どういう気持ちかわからなかった」(3名-7.3%)、「妊娠を知らせなかった」(3名-7.3%)と母親の反応がわからないものもあるが、「産んでほしくないようだった」(1名)、「とにかく中絶するようすすめた」(4名)と妊娠を否定的に思っているものがあわせて5名(12.2%)いた。「親はいなかった」というものも2名(4.9%)いる。

父親の場合「うれしそうだった」というものは8名(19.5%)、「しかたがないという感じだった」が9名(22.0%)であった。「とにかく結婚するようすすめた」ものも2名(4.9%)いた。「どういう気持ちかわからなかった」(2名-4.9%)、「妊娠を知らせなかった」(2名-4.9%)と父親の反応がわからないものもあるが、「産んでほしくないようだった」(4名)、「とにかく中絶するようすすめた」(2名)をあわせて5名(12.9%)は否定的な反応だった。また「親はいなかった」というものが7名(17.1%)いる。

妊娠や出産によって学業・仕事に何か影響があったかどうかきいたところ、「とくに影響はなかった」と答えたものは15名(36.6%)で、その他のものはなんらかの影響があったと答えている。一番多いのは「仕事をやめた」の13名(31.7%)で、「仕事を休職した」と答えた2名(4.9%)をあわせると、仕事への影響が大きいことがわかる。

学業への影響があったというものでは、「学校を退学した」というものが9名(22.0%)いたが、学校を休学したものはいなかった。「学校を退学した」事情は、「自分からそうするほかないと考えた」ものが5名、「どちらかという自分で望んで」というものが4名、その他が1名であった。退学したあとは無回答の1名を除いて全員がそのまま学業を中断している。

妊娠・出産をしても住むところが変わらなかったのは14名(34.1%)にすぎない。妊



娠してまもなく住むところが変わったものは18名(43.9%)、出産が近づいて変わったものが4名(9.8%)、出産と同時に変わったものが1名(2.4%)、出産後しばらくしてから変わったものが4名(9.8%)いる。住所を変更した理由は、「仕事の関係で転居が必要だったから」という理由が4名(9.8%)「子どもと暮らすには狭すぎたから」、「親のそばにいきたかったから」がおのおの2名(4.9%)、「近隣関係がわずらわしかったから」、「子持ちは住めないことになっていたから」が各々1名(2.4%)であった。なおその他が16名(39.0%)、無回答・非該当が15名(36.6%)あった。

妊娠や出産によって相手(子の父)との婚姻関係が「結婚(届け出)をしていて変わらなかった」ものは8名(19.5%)、「同居していて変わらなかった」ものは1名(2.4%)で、変化がなかったものは9名である。変化があったもののうち一番多いのは、「結婚(届け出)することになった」で、26名(63.4%)で、妊娠を機に入籍したことがわかる。一方、妊娠をきっかけに「別れることになった」ものが2名(4.9%)いる。

妊娠中の悩み(複数回答)についてきいたところ、「とくにない」と答えたものはわずか3名(7.3%)にすぎない。悩みがあると答えたものの具体的な内容としては、「子どもの世話や育てかた」(21名、51.2%)「分娩の不安」(18名、43.9%)や「子どもの健康」(18名、43.9%)などが多かった。「妊娠中の体調」(7名、16.1%)についての悩みもあるが、「相手(夫)の親との関係」(10名、24.4%)、「自分の親との関係」(7名、17.1%)、「相手(夫)との関係」(3名、7.3%)など、妊娠、出産にともない人間関係が大きく変化したことが反映して悩みとなっていることが特徴的である。「産まれたあとの生活(経済)」についての悩みも15名(36.6%)あった。さらに「やりたいことができなくなったこと」(9名、22.0%)や、「周囲からの視線や噂」(3名、7.3%)、「自分の将来」(3名、7.3%)、「学校・学業・または職場・仕事」(1名、2.4%)なども悩みとしてあげられている。

悩み事の相談相手(複数回答)は、「自分の親」(18名、43.9%)、「相手(夫)」(15名、36.6%)、「きょうだい」(7名、17.1%)、「相手(夫)の親」(2名、4.9%)、「親戚」(2名、4.9%)と、親や相手、および双方の血縁者に相談するものが多い。一方「友人・知人」が相談相手になったものも19名(46.3%)ある。「職場の上司・仲間」や「学校の担任」も各々1名(2.4%)いた。「産婦人科医」3名(7.3%)、「保健婦」2名(4.9%)と専門家が相談相手になってくれたが、相談相手は「とくになかった」ものも2名(4.9%)あった。

妊娠してから出産するまでの気持ちの変化をきいたところ、「親になることの自覚や期待のほうが強くなった」というもの16名(39.0%)、「親になることの負担や不安のほうが強くなった」というもの11名(26.8%)、「とくにどちらともいえない」というもの14名(34.1%)という回答が得られた。

出産の場所をどのようにして決めたかをきいたところ、「自分の親と相談して決めた」ものが11名(26.8%)、「相手(夫)と相談して決めた」ものが10名(24.4%)、「自分で探して決めた」ものが8名(19.5%)、「相手(夫)の親と相談して決めた」ものが5名(12.2%)、「友だちに紹介してもらって決めた」ものが3名(7.3%)、その他が4名(9.8%)であった。

実際に出産した場所は、「実家から通院・見舞いができる場所だった」が20名(48.

8%)、「相手の実家から近かった」が12名(29.3%)、「自分の実家からも、相手の実家からも遠いところだった」が7名(17.1%)、その他が2名(4.9%)であった。

出産の費用は「相手(夫)が用意した」ものが17名(41.5%)で一番多い。つぎに、「自分の親が用意した」もの9名(22.0%)、「相手(夫)の親が用意した」ものが4名(9.8%)で13名が親に用意してもらっている。「自分で用意したもの」、「入院助産・出産扶助など公的制度を利用した」が各々1名(2.4%)、その他が4名(9.8%)あった。

出産で入院するときの付き添い(複数回答)は、「相手(夫)」が21名(51.2%)、「自分の親・きょうだいなど」が16名(39.0%)、「相手(夫)の親・きょうだいなど」が9名(22.0%)である。「友達」(2名、4.9%)やその他(3名、7.3%)と答えたものもいるが、「とくにいなかった」と答えたものも1名(2.4%)いた。

出産直後(退院してから)の子どもの世話は、「自分の母親・きょうだい・親戚」が見てくれたというものが25名(61.0%)、「相手の母親・きょうだい・親戚」がみてくれたのは5名(12.2%)を占める。しかし、「相手」がみてくれたのは1名(2.4%)にすぎず、「自分一人で」子どもの面倒をみたものが7名(17.1%)いた。

### 3. 子どものこと、子育てについて

現在の回答者と相手(子の父)の婚姻関係をみると、婚姻届けを提出したものは36名(87.8%)である。そのうち相手(子の父)と同居しているのは33名で、相手(子の父)と離婚したものは3名である。婚姻届けを提出しなかったのは5名(12.2%)で、そのうち2名は相手(子の父)と同居後離別しており、3名は初めから相手(子の父)と同居していない。

婚姻届けを提出していない場合、子どもの籍は「父親が認知している」ものが1名(2.4%)、「父親が認知していない」ものが1名(2.4%)、「自分の親の籍にはいった」ものが2名(4.9%)、その他が1名(2.4%)となっている。

現在の家族構成は、母親と「子ども+相手(夫)」という構成が20名(48.8%)、「子ども+相手(夫)+相手(夫)の親」が7名(17.1%)、「子ども+相手(夫)+自分の親」が3名(7.3%)であった。母親と「子ども」の構成が3名(7.3%)、「子ども+自分の親」の構成が3名(7.3%)と現在相手(子の父)とはくらしていないものが6名いる。その他が5名(12.2%)、無回答も3名(7.3%)いる。

相手(子の父)が子どもと同居している場合、子どもの世話を「よくする」が19名、「ある程度する」が9名、「ほとんどしない」が4名、「全くしない」が1名である。

相手(子の父)が子どもと同居していない場合、子どもの様子を「時々見にくる」ものは2名しかおらず、ほかは「知ろうとする気がない」が3名、その他が2名である。

養育費の支払いに関しても、「定期的に受け取っている」、「時々受け取っている」ものが各1名にすぎず、あとは「約束したのにくれない」が1名、「最初から全くそういう話はない」が4名、その他1名といった実態である。

ふだんの日中の子どもの世話は、回答者が自分がみているというものが多く33名(80.5%)である。保育所に預けているのは7名(17.1%)、自分の母親にみてもらっているのは1名(2.4%)である。

子どもの健康面について心配になることがあったと答えたものは13名(31.7%)、特

になかったと答えたものは27名(65.9%)、無回答1名(2.4%)であった。

最初の乳児検診をうけたのは「1ヵ月検診」で34名(82.9%)、「4ヵ月検診」が3名(7.3%)、「まだ受診していない」が1名(2.4%)、現在4ヶ月で未受診であるもの1名(2.4%)、現在満1歳以上であるが未受診であるもの2名(4.9%)となっている。

子育てについての悩み(複数回答)が「とくにない」と答えたものは13名(31.7%)で、その他はなんらかの悩みをかかえている。以下にそれをあげると、「子どもの発育が順調でないこと」5名(12.2%)、「子どもの世話のしかたがわからない、心配」7名(17.1%)、「子どもの睡眠や哺乳などがうまくいかずいらいらする」2名(4.9%)、「子どもの育て方で親と意見があわないこと」4名(9.8%)、「子育てで疲れて体がきつい」5名(12.9%)、「毎日子どもの世話ばかりでおもしろくない」5名(12.2%)、「子どもとだけの生活で孤独」4名(9.8%)、「相手(夫)が子どものことに責任を感じてくれない」4名(9.8%)、「子どもがいて外出や友だちづきあいができない」8名(19.5%)、「子どもがいて学校にいけない」1名(2.4%)、「子どもがいて働けない」7名(17.1%)、「子どもができて経済的に苦しい」13名(31.7%)、「子どものことで住宅に苦勞している」3名(7.3%)、「子どもをかかえて生活がどうなるか不安」6名(14.6%)、その他2名(4.9%)である。

子育ての相談相手(複数回答)は「相手(夫)」(23名—56.1%)、「自分の親・きょうだい」(22名—53.7%)、「相手(夫)の親・きょうだい」(7名—17.1%)と、親やきょうだいと相手に相談するものが多い。「友人・知人」が相談相手になっているものは21名(51.2%)ある。「学校(時代)の担任」も1名(2.4%)いた。「保健婦」2名(4.9%)、「保育所の保母」2名(4.9%)と専門家と相談していると答えたもの、「役所関係の人」の相談しているものも1名(2.4%)、その他も2名(6.5%)いるが、「とくにない」というものも1名(2.4%)いる。

子育てについて、産まれる前に想像していたことといまの状況をくらべて感じることは「想像していたより楽しい」15名(36.6%)、「想像していたよりもつらい」12名(29.3%)、「だいたい想像していたとおり」14名(34.1%)と3分された。

今回の妊娠・出産をふりかえてみて、つらかったこと(複数回答)が「とくにない」と答えたものは16名(39.0%)で、その他はなんらかのことでつらいとおもったことがあると答えている。具体的にその内容をのべると、「出産や育児にいつまでも自信がもてなかった」6名(14.6%)、「産みたくないのに産まなければならなかった」3名(7.3%)、「友達や周囲から特別な目でみられた」3名(7.3%)、「親や兄弟から非難・反対された」5名(12.2%)、「親やきょうだいと別れてくらすことになった」1名(2.4%)、「学校をやめなければならなかった」4名(9.8%)、「仕事をやめなければならなかった」4名(9.8%)、「相手(夫)が自分を理解してくれなかった」5名(12.2%)、「相手(夫)との関係がぎくしゃくしていた」4名(9.8%)、「相手(夫)と別れることになった」2名(4.9%)、「生活の見通しが立たなくて心細い」8名(19.5%)、「適当な相談相手がいなかった」4名(9.8%)、その他1名(2.4%)である。

逆に今回の妊娠・出産をふりかえてよかったと思うこと(複数回答)をきいたところ、「気持ちがおちついて生活に自信がでてきた」3名(7.3%)、「毎日が充実していて生きがいを感じる」9名(22.0%)、「親としてきちんとしなければならぬという責任感が

湧いてきた」22名(53.7%)、「子どもが可愛くて成長が楽しみ」33名(80.5%)、「まわりの友達よりもひとあし先に成長したような気がする」10名(24.4%)、「人間関係がうまく結べるようになったこと」5名(12.2%)、「親になって少しはつらいことも我慢できるようになった」20名(48.8%)、「親や周囲への感謝の気持ちがわいてきた」21名(51.2%)、「相手(夫)が人間的に成長した」9名(22.0%)、「相手(夫)との関係がよくなった」8名(19.5%)、「自分の親や相手(夫)の親との関係がよくなった」9名(22.0%)、「親しい友だち関係が生じた」14名(34.1%)という回答が得られた。

また、若い時期(10代)に出産したことをどのように思っているかをきいたところ、「子どもがほしいと思っていたのでよかったと思う」15名(36.6%)、「少しとまどったが今ではよかったと思う」15名(36.6%)、「自然のなりゆきでとくにどうとも思わない」4名(9.8%)、「できればこんなに早く産まない方がよかったと思う」4名(9.8%)、その他2名(4.9%)、無回答1名(2.4%)という結果であった。

これからあと何人くらい子どもを産みたいと思うか尋ねたところ「もうほしくない」とこたえたのは7名(17.1%)で、「あと1人」が19名(46.3%)、「あと2人」が10名(24.4%)、「あと3人以上」というものも1名(2.4%)いた。「わからない」とこたえたものは4名(9.8%)いる。

子どものことで、福祉・保健その他の公的な機関や制度の利用(複数回答)は「役所(福祉事務所)への相談」5名(12.2%)、「児童相談所への相談」1名(2.4%)、「家庭裁判所への相談」1名(2.4%)、「保健婦等の訪問指導」9名(22.0%)、「養育医療(育成医療)」1名(2.4%)、「児童手当」13名(31.7%)、「児童扶養手当」5名(12.2%)、「入院助産制度」1名(2.4%)、「保育所」3名(7.3%)が利用していた。

子育てをしていて、社会的に解決してほしいと切実に感じていること(複数回答)は、「子育てをしているあいだは育児手当など経済的な援助がほしい」13名(31.7%)、「子どもがいても住めるような住宅を提供してほしい」5名(12.2%)、「子育てのあいだ仕事が休めるような育児休業制度がほしい」2名(4.9%)、「働きながら子育てができるように保育を充実してほしい」20名(48.8%)、「気軽に子育ての相談にのってもらえるところがほしい」9名(22.0%)、「子育てしながらでも母親も息抜きができるような場がほしい」15名(36.6%)、「子どもがのびのびと遊べるような場所をつくってほしい」21名(51.2%)、「子どもの友達をつくれるような機会がほしい」8名(19.5%)、「親どうしが仲良くなれるような機会がほしい」15名(36.6%)、「子育てや家庭のことを周囲からとやかくいわないようにしてほしい」5名(12.2%)、その他1名(2.4%)という要望があげられた。

#### 4. 妊娠・出産前の状況と現在の生活

回答者の最初の性体験(性交)は、「中学生」4名(9.8%)、「16歳」17名(41.5%)、「17歳」15名(36.6%)、「18歳以上」が4名(9.7%)、無回答1名(2.4%)である。

具体的な避妊のしかたを教えてもらった相手(複数回答)は、「中学校の先生から」9名(22.0%)、「高校の先生から」4名(9.8%)、「親から」2名(4.9%)が教わってい

るが、「友人・知人から」20名(48.8%)、「雑誌・本などで」11名(26.8%)というほうが多い。その他が2名(4.9%)、「覚えていない」も3名(7.3%)いる。

妊娠する前に子どもについてどのように考えていたのかきいたところ、「すぐにも自分の子どもが欲しいと思っていた」のは8名(19.5%)、「適当な時期になったら自分の子どもが欲しいと思っていた」のが21名(51.2%)であった。「いつかは子どもをもつようになるだろうとばくぜんと考えていた」のは7名(17.1%)、「自分の子どもをもつことなどほとんど考えたことがなかった」ものが5名(12.2%)いた。

今回の妊娠は「はじめて」が29名(70.7%)、「2回目」が11名(26.8%)、無回答1名(2.4%)であった。2回目の妊娠のものに人工妊娠中絶の経験をきいたところ、「ない」が8名、「ある」が4名であった。

回答者の最終学歴は、「中学卒業」が4名(9.8%)、「高校卒業」が13名(31.7%)、「高校中退」が21名(51.2%)、「短大中退」が1名(3.2%)、その他1名(3.2%)、無回答1名(3.2%)であった。

中学生・高校生のころ、両親の関係が「とてもいい関係」と回答したものは8名(19.5%)、「まあまあいい関係」は16名(39.0%)と、いい関係だったのは24名(58.5%)である。「どちらともいえない」は5名(12.9%)である。「あまりいい関係ではなかった」は5名(12.2%)、「まったくいい関係ではなかった」は5名(12.2%)で、あわせて10名(24.4%)はいい関係ではなかった。その他は2名(4.9%)である。

同じく中学生・高校生のころ、家庭の経済状態が「かなり楽だった」は3名(7.3%)、「楽なほうだった」は11名(26.8%)で楽だというものはあわせて14名(34.1%)である。「どちらともいえない」は15名(36.6%)である。「苦しいほうだった」は7名(17.1%)、「かなり苦しかった」は4名(9.8%)で苦しいというものはあわせて11名(26.8%)である。その他は1名(2.4%)である。

回答者が中学生・高校生だったころの学校生活について「とても楽しかった」が13名(31.7%)、「まあまあ楽しかった」13名(31.7%)、「どちらともいえない」2名(4.9%)、「あまり楽しくなかった」9名(22.0%)、「まったく楽しくなかった」2名(4.9%)、その他2名(4.9%)という回答を得た。

現在、どのような生活上の援助(複数回答)をうけているかをきいたところ、回答者の親からは「住居のことで世話になっている」5名(12.2%)、「生活費のことで世話になっている」7名(17.1%)、「お小遣いや品物をときどきもらう」12名(29.3%)、「家事を手伝ってもらおう」3名(7.3%)、「子どもの世話をしてもらおう」15名(36.6%)、「家事や育児の相談にのってもらっている」13名(31.7%)、「悩みや将来の問題を相談する」7名(17.1%)という援助をうけていることがわかった。しかし、「とくにない」というものも7名(17.1%)いる。親はいないという回答が1名(2.4%)であった。

相手(子の父)の親からは「住居のことで世話になっている」3名(7.3%)、「生活費のことで世話になっている」8名(19.5%)、「お小遣いや品物をときどきもらう」10名(24.4%)、「家事を手伝ってもらおう」2名(4.9%)、「子どもの世話をしてもらおう」7名(17.1%)、「家事や育児の相談にのってもらっている」1名(2.4%)であった。「とくにない」というものも11名(26.8%)いる。

現在の回答者の就労は、「フルタイムの勤務」が4名(9.8%)、「パートなどの勤務」5名(12.2%)、「家業の手伝い」が4名(9.8%)で、多く(26名-63.4%)は仕事をしていない。

現在の生活費(養育費を含む)は、おもに「夫(相手)の収入」によるものが24名(58.5%)、「自分と夫(相手)の収入」が4名(6.5%)、「自分の親の収入」が2名(4.9%)、「夫(相手)の親の収入」が3名(7.3%)、「自分の収入」が2名(4.9%)、その他が4名(9.8%)、無回答が2名(4.9%)である。

現在のくらしむき(経済状態)は「かなり楽である」1名(2.4%)、「楽なほうである」9名(22.0%)、「どちらともいえない」11名(26.8%)、「苦しいほうである」13名(31.7%)、「かなり苦しい」5名(12.2%)、無回答3名(7.3%)であった。

住宅は「自分・夫(相手)名義の持ち家」1名(2.4%)、「自分の親の持ち家」4名(9.8%)、「夫(相手)の親の持ち家」8名(19.5%)、「公営賃貸住宅」14名(34.1%)、「民間賃貸住宅」9名(22.0%)、「社宅・官舎・社員寮」3名(7.3%)、その他1名(2.4%)、無回答1名(2.4%)となっている。

最後に「生活のことや子どものこと、妊娠・出産・育児を体験して感じたことや困っていること」などについて具体的によせられた意見は以下の通りである。

- 育児仲間がほしいが、年齢差があって難しい気がする。同年代の育児仲間が欲しい。

(出産時19歳、現在22歳)

- 福祉面、市町村によって差がありすぎると感じる。また、対応もまちまちで、きちんと相談にのってくれる所もあれば、相談してもきちんとしてもらえない所もあり不満。若年出産の友人が自分のまわりにも何人かいるが、皆それまで保健福祉行政といった所と全く関係なかったり知らなかったりして一人で悩んでいる。保健婦が相談にのってくれたり、いろんな施策があることをもっと知らせてほしい。

(出産時18歳、現在23歳)

- 第1子はS県で出産した。S県ではミルクとか他にも育児に役立つものをくれたが、第2子出産のときのM市では粉石鹸ぐらいであまり良い物がいただけなかった。育児に役立つような物を欲しい。母子寮に住んでいるが、寮の管理人が良くない。専門職の相談できる人をおいて欲しい。

(出産時19歳、現在23歳)

- 経済的に苦しいので、経済面の援助(オムツ、ミルクの補助、住宅について)があればと思う。

(出産時19歳、現在22歳)

- 育児について気軽に相談できる場、人がいない。子どもがいても自分がスポーツなどできる場が欲しい。周りに子どもがいないので自分の育児がどうなのか比較できない。夫が遊びたがってばかりいて子どもの世話も手伝ってくれない。

(出産時18歳、現在21歳)

- 同じ年頃の子どもたちが遊ぶ機会がない。子どもがわがまま。

(出産時19歳、現在22歳)

- 早くに子どもを持ったので、心配なことが山ほどあるけれど頑張っていこうと思います。

子どもの短所を含めてトータルにわが子をとらえる事のできる賢い親にならなければ、と頑張りたい。  
(出産時18歳、現在20歳)

- 若い出産はそれなりに病院なんかでも又、周囲からの白い目が厳しかった。経済的にも気持ちの面からも大変だった。夫が妊娠中にも職を転々と変えて不安定で苦しかった。だけど苦しいなりに言い面もある、得することも多いと思う。だって私が40歳の時、この子は20歳だから、得することも多い。育児サークル(育児雑誌)に入っている。  
(出産時19歳、現在21歳)

- 生活が苦しい。子どもを育てるにあたり、家賃、光熱費、食費等何か一つ免除もしくは援助してもらえるような制度が出来ると良い。出産の費用を退院時、まず自己負担しなければならない。20~30万円というまとまったお金を準備することが大変。もう一人子どもが欲しくても、そのお金を貯めることが難しい。始めから保険で負担してくれ、不足分を自己負担として欲しい。  
(出産時18歳、現在21歳)

- 妊娠中、情報、子どもの事で不安になってノイローゼ気味になった。相談する所が欲しい。同じ立場の友達が欲しかった。出産した後もノイローゼ気味になった、一日おきに熱をだしていたが、全部一人でやってきた。現在妊娠中、10月出産予定。  
(出産時16歳、現在20歳)

- 若くても産むことが大事だと思う。いろいろあったが、なんとかここまで来たという感じ。  
(出産時19歳、現在21歳)

- 周りの目は十代を意識させられる。よけい頑張らねばと思う。  
(出産時19歳、現在22歳)

- 母子寮入寮をすすめられたが、交通不便なところ。現在は市営住宅だが、近くには友人や遠い親戚がいて援助してくれている。仕方ない事とは思いますが、今まで生活してきた環境の中で子育てできるような方法はないかと思う。  
(出産時19歳、現在20歳)

- 友達も欲しいと思うが、村の近くに同年代の友達がいない。かえって若いからと影でコソコソ言われる事もあり、いやだと思ふ事がある。  
(出産時19歳、現在21歳)

## (2)非若年出産者調査の集計結果

以下は、協力のえられた非若年出産女性215名の回答結果をまとめたものである。

### I. 調査対象者の諸特性

調査は長野県下の松本、豊科、諏訪の各保健所の協力により、1歳6ヵ月検診に来所した母親のうち、はじめての出産を年齢25歳から29歳のあいだに経験した母親（非若年出産女性）に対し行われた。調査時期は1993年の5月から9月の間に、来所した母親に調査票を手渡し、持ちかえって記入後返送してもらう方法がとられた。有効回答が得られたのは、松本保健所管内の163名、豊科保健所管内の38名、諏訪保健所管内の14名の合計215名である。

当該の子どもを出産したときの回答者の年齢は25歳が46名(21.4%)、26歳が43名(20.0%)、27歳が46名(21.4%)、28歳が39名(18.1%)、29歳が41名(19.1%)で、平均年齢は26.9歳である。

### II. 出産と育児の状況

#### 1. 妊娠から出産にいたる経過

今回の妊娠に気付いた時期は、「妊娠2ヵ月」というものが179名(83.3%)、「3ヵ月」というものが29名(13.5%)、「4～5ヵ月」というものが7名(3.3%)であった。妊娠後最初に受診した時期は、「妊娠2ヵ月」が150名(69.8%)、「3ヵ月」が52名(24.2%)、「4～5ヵ月」が10名(4.7%)、「6～7ヵ月」が2名(0.9%)であった。妊娠に気付いてからどれくらい経過してから最初に受診したかという質問には、「気付いてすぐ」と答えているものが170名(79.1%)、「1ヵ月くらい」というものが31名(14.4%)、「2ヵ月くらい」というものが9名(4.2%)、「3ヵ月以上」というものが2名(0.9%)、「おぼえていない」が1名(0.5%)である。この結果から大部分のものは妊娠2ヵ月から3ヵ月の比較的早い時期に気付いており、その後すぐ受診していることがわかる。

母子手帳の交付をうけたのは「妊娠5ヵ月以前」が200名(93.0%)、「妊娠6～9ヵ月」が12名(5.6%)、また、「覚えていない」と答えたものも2名(0.9%)いる。

妊娠してから医師の診察を「医師の指示どおり定期的に受けていた」ものは211名(98.1%)で圧倒的多数は定期的に医師の診察を受けている。「自分で判断し適当な間隔で受けていた」ものは1名(0.5%)、「数回しか受けなかった」ものは2名(0.9%)と妊娠中きちんと医師の診察を受けていないものは3名(1.4%)にすぎない。そのうちの一人は診察を受けなかった理由として「なんとなく面倒だった」と答えている。

妊娠中に母親学級を受講したものは184名(86.0%)、受講しなかったものは27名



(12.6%)である。受講したもののうち、「数回からなるコースを修了した」ものは139名(64.7%)、「コースの一部分だけを受講した」ものは24名(11.2%)、「1回だけの学級を受講した」ものは21名(9.8%)であった。受講した場所(複数回答)は、「保健所・市町村など」と答えたものが80名、「病院・医院など」が144名、「その他」が1名であった。

妊娠期間中に回答者の多くが、母子手帳の交付を受け、医師の定期検診や母親学級を受けるなどの保健医療サービスをうけていたことがわかる。

妊娠中に心配になるような身体の問題や異常が「とくになかった」ものが121名(56.3%)、「あった」ものは91名(42.3%)で約4割が問題や異常があったと答えている。また、分娩前後に心配になるような身体の問題や異常が「とくになかった」ものが165名(76.7%)と約3/4が問題や異常がない分娩である。「あった」ものは48名(22.3%)いる。

妊娠がわかった時、回答者と相手(子の父)の関係は、「結婚(届出)していた」ものが195名(90.7%)と圧倒的に多い。「同棲していた」ものは4名(1.9%)、「婚約していた」ものが9名(4.2%)、その他が5名(2.3%)である。

妊娠した時、「就労」していたものが152名(70.7%)、「就労していなかった」ものが61名(28.4%)である。

妊娠がわかった時の回答者の気持ちは、「うれしかった」とこたえたものが一番多く151名(70.2%)であった。ついて「うれしさと当惑が半々だった」が40名(18.6%)、「あまりピンとこなかった」ものが17名(7.9%)いる。ごく少数ではあるが、「やむをえないという気持ちだった」(3名、1.4%)、「とてもショックだった」(1名、0.5%)というものもある。妊娠については初めての妊娠に当惑や実感がわからないというものも約1/4いるが、約7割が喜ばしいことと受け止めている。

妊娠がわかった時、中絶について大多数の205名(95.3%)が「全く考えなかった」と答えている。ごく少数の9名は中絶のことを考えているが、そのレベルは「ちらと頭をかすめた」というものが7名(3.3%)、「中絶すべきかどうか迷った」というものが2名(0.9%)であった。このように少しでも中絶を考えたものが産むことになったのは、「中絶のことはすぐ頭から消えた」(4名)、「徐々に産もうという気持ちに変わった」(1名)、「相手から産むように強くすすめられた」(1名)という理由による。

相手(子の父)に妊娠を知らせた時の反応については、168名(78.1%)が「うれしそうだった」と回答している。また、29名(13.5%)は「うれしさと当惑がまじっていた」気持ちであり、11名(5.1%)は「どういう気持ちかわからなかった」。一方「産んでほしくないようだった」という反応が2名(0.9%)、その他が2名(0.9%)いた。

妊娠については、初めてということと当惑や実感がわからないというものもあるが、大部分の回答者、およびその相手(子の父)は喜びをもってその事態を受け止めていることがわかる。

妊娠中の悩み(複数回答)についてきいたところ、「とくにない」と答えたものはわずか21名(9.8%)にすぎない。悩みがあると答えたものの具体的な内容としては、「妊娠中の体調」(87名、40.5%)、「分娩の不安」(128名、59.5%)、「子どもの健康」(126名、58.6%)、「子どもの世話や育てかた」(60名、27.9%)、「産まれ

たあとの生活（経済）」についての悩みも19名(8.8%)、「相手(夫)との関係」(5名、2.3%)、「自分の親との関係」(3名、1.4%)、「相手(夫)の親との関係」(17名、7.9%)、「周囲からの視線や噂」(3名、1.4%)、「やりたいことができなくなったこと」(24名、11.2%)や、「自分の将来」(10名、4.7%)などであった。悩み事の相談相手(複数回答)は、「相手(夫)」(165名、76.7%)、「自分の親」(135名、62.8%)、「相手(夫)の親」(30名、14.0%)、「きょうだい」(64名、29.8%)、「親戚」(6名、2.8%)という結果であった。

「友人・知人」が相談相手になったものも111名(51.6%)、「保健婦」も10名(4.7%)いた。これは若年出産女性の場合とほぼ同じポイントであった。「職場の上司・仲間」22名(10.2%)、「産婦人科医」50名(23.3%)というポイントも高い。相談相手は「とくにいなかった」ものも2名(0.9%)あった。

妊娠してから出産するまでの気持ちの変化をきいたところ、「親になることの自覚や期待のほうが強くなった」というもの128名(59.5%)、「親になることの負担や不安のほうが強くなった」というもの29名(13.5%)、「とくにどちらともいえない」というもの57名(26.5%)という回答が得られた。

出産の場所は「自分で探して決めた」ものが73名(34.0%)、「相手(夫)と相談して決めた」ものが61名(28.4%)で、自分で、あるいは相手(子のちち)との相談で決めたものが約6割である。また「自分の親と相談して決めた」ものが44名(20.5%)、「相手(夫)の親と相談して決めた」ものが9名(4.2%)で約1/4は親と相談して決めている。「友だちに紹介してもらって決めた」ものは12名(5.6%)、その他が14名(6.5%)であった。

実際の出産の場所は、「実家から通院 見舞いができるところだった」が146名(67.9%)、「相手の実家から近かった」が42名(19.5%)、「自分の実家からも、相手の実家からも遠いところだった」が15名(7.0%)、その他が11名(5.1%)であった。出産の費用は「自分たちで用意した」ものが185名(86.0%)で大部分がこれにあたる。「自分の親が用意した」もの4名(1.9%)、「相手(夫)の親が用意した」ものが9名(4.2%)など、13名が親に用意してもらっている。「入院助産・出産扶助など公的制度を利用した」が10名(4.7%)、その他が2名(0.9%)あった。

出産で入院するときの付き添い(複数回答)は、「相手(夫)」が114名(53.0%)、「自分の親・きょうだいなど」が113名(52.6%)、「相手(夫)の親・きょうだいなど」が25名(11.6%)である。「友達」(1名、0.5%)やその他(6名、2.8%)と答えたものもいるが、「とくにいなかった」と答えたものも6名(2.8%)いた。出産直後(退院してから)の子どもの世話は、「相手」がみてくれたのは4名(1.9%)にすぎず、「自分の母親・きょうだい」がみてくれたというものが171名(79.5%)、「相手の母親・きょうだい・親戚」がみてくれたのは11名(5.1%)であった。また「自分一人で」子どもの面倒をみたものが21名(9.8%)いた。

以上の結果から、妊娠から出産にいたるプロセスで、出産の場所や費用については回答者と相手(子の父)が主導権をもって決める、あるいは責任をもつが、付き添いや具体的な面倒は回答者の実家にみてもらうという傾向をしめしている。

## 2. 子育ての状況

回答者が出産した子どもの人数は、「1人」が47名(21.9%)、「現在第2子妊娠中」が24名(11.2%)、「2人」が129名(60.0%)、「3人」が10名(4.7%)、その他が3名(1.4%)であった。

現在の回答者と相手(子の父)の配偶関係をみると、相手(子の父)と同居しているのは209名で、ほとんどがこれにあたる。相手(子の父)と離別したものは2名、その他は2名であった。

現在の家族構成は、母親と「子ども+相手(夫)」という構成が141名(65.6%)、「子ども+相手(夫)+相手(夫)の親」が54名(25.1%)、「子ども+相手(夫)+自分の親」が12名(5.6%)であった。回答者と「子ども」の構成が2名(0.9%)、「子ども+自分の親」、「子ども+相手(夫)の親」の構成が各々1名(0.5%)、その他が3名(1.4%)いる。

相手(子の父)が子どもと同居している場合に子どもの世話を「よくする」が100名(46.5%)、「あるていどする」が91名(42.3%)、「ほとんどしない」が16名(7.4%)、「まったくしない」が1名(0.5%)で、相手(子の父)は比較的良好に子どもの面倒をみているとこたえたものの割合が多い。

ふだんの日中の子どもの世話は、回答者がみているというものが多く173名(80.5%)である。回答者の母親にみてもらっているのは5名(2.3%)と少なく、相手(子の父)の母親にみてもらっているのが13名(6.0%)、保育所に預けているのは17名(7.9%)、その他が2名(0.9%)である。

子どもの健康面について心配になることがあったと答えたものは28名(13.0%)、とくになかったと答えたものは184名(85.6%)であった。

最初の乳児検診を受けたのは「1ヵ月検診」が一番多く193名(89.8%)、「4ヵ月検診」が10名(4.7%)、「10ヵ月検診」が1名(0.5%)、その他が3名(1.4%)となっている。

子育てについての悩み(複数回答)が「とくにない」と答えたものは73名(34.0%)で、その他の66.0%はなんらかの悩みをかかえている。以下にそれをあげると、「子どもの発育が順調でないこと」12名、「子どもの世話のしかたがわからない、心配」43名、「子どもの睡眠や哺乳などがうまくいかずいらする」12名、「子どもの育て方で親と意見があわないこと」22名、「子育てで疲れて体がきつい」42名、「毎日子どもの世話ばかりでおもしろくない」34名、「子どもとだけの生活で孤独」12名、「相手(夫)が子どものことに責任を感じてくれない」10名、「子どもがいて外出や友だちづきあいができない」30名、「子どもがいて働けない」21名、「子どもができて経済的に苦しい」17名、「子どものことで住宅に苦勞している」5名、「子どもをかかえて生活がどうなるか不安」8名(3.7%)、その他15名(7.0%)である。子育てについての悩みについては若年出産女性と比較しても大きな差は見られなかった。

一方、子育ての相談相手(複数回答)は「相手(夫)」(177名)、「自分の親・きょうだい」(170名)、「相手(夫)の親・きょうだい」(75名)と、親やきょうだいを相談相手にするものが多く、若年出産女性と比較するとすべての項目でポイントが高い。そのほかには「友人・知人」が相談相手になっているものが139名、「職場(時

代)の上司・仲間」も14名いた。専門家である「産婦人科医」2名、「保健婦」19名、「保育所の保母」10名と相談していると答えたもの、「民生・児童委員」1名や「役所関係の人」と相談しているものも2名、その他も7名いるが、「とくにいない」というものも1名いる。

子育てについて、産まれる前に想像していたことといまの状況をくらべて感じることは「想像していたより楽しい」55名(25.6%)、「想像していたよりもつらい」58名(27.0%)、「だいたい想像していたとおり」100名(46.5%)と答えが別れた。

今回の妊娠・出産をふりかえてみて、つらかったこと(複数回答)が「とくにいない」と答えたものは125名で、約6割はつらくなかったと答えている。なんらかのことでつらいとおもった約4割のものの具体的内容は、「体調が悪くて産むことに自信がもてなかった」19名、「仕事をやめなければならなかった」15名、「相手(夫)が自分を理解してくれなかった」21名、「生活の見通しが立たなくて心細い」8名、「適当な相談相手がいなかった」8名、その他29名である。

逆に今回の妊娠・出産をふりかえてよかったと思うこと(複数回答)をきいたところ、「気持ちがおちついて生活に自信がでてきた」32名、「毎日が充実していて生きがいを感じる」69名、「親としてきちんとしなければならないという責任感が湧いてきた」130名、「子どもが可愛くて成長が楽しみ」173名、「まわりの友達よりもひとあし先に成長したような気がする」30名、「人間関係がうまく結べるようになったこと」30名、「親になって少しはつらいことも我慢できるようになった」78名、「親や周囲への感謝の気持ちがわいてきた」120名、「相手(夫)が人間的に成長した」38名、「相手(夫)との関係がよくなった」21名、「自分の親や相手(夫)の親との関係がよくなった」37名、「親しい友だち関係が生じた」114名という回答が得られた。

また、出産時期については、「早すぎたと思う」が3名(1.4%)、「もう少し遅くてもよかったと思う」が20名(9.3%)、「ちょうどよかったと思う」124名(57.7%)、「もう少し早くてもよかったと思う」が63名(29.3%)、「遅すぎたと思う」が4名(1.9%)という結果であった。

これからあと何人くらい子どもを産みたいと思うか尋ねたところ「もうほしくない」とこたえたのは65名(30.2%)で、「あと1人」が99名(46.0%)、「あと2人」が23名(10.7%)、「あと3人以上」というものも1名(0.5%)いた。「わからない」とこたえたものは25名(11.6%)いる。

子どものことで、福祉・保健その他の公的な機関や制度の利用(複数回答)は「役所(福祉事務所)への相談」8名、「児童相談所への相談」4名、「家庭裁判所への相談」1名、「保健婦等の訪問指導」48名、「養育医療(育成医療)」9名、「児童手当」39名、「児童扶養手当」9名、「入院助産制度」10名、「保育所」25名が利用していた。

子育てをされていて、社会的に解決してほしいと切実に感じていること(複数回答)は、「子育てをしているあいだは育児手当など経済的な援助がほしい」120名、「子どもがいても住めるような住宅を提供してほしい」18名、「子育てのあいだ仕事が休めるような育児休業制度がほしい」36名、「働きながら子育てができるように保育を充実してほ

しい」86名、「気軽に子育ての相談にのってもらえるところがほしい」46名、「子育てしながらでも母親も息抜きができるような場がほしい」126名、「子どもがのびのびと遊べるような場所をつくってほしい」137名、「子どもの友達をつくれるような機会がほしい」81名、「親どうしが仲良くなれるような機会がほしい」60名、「子育てや家庭のことを周囲からとやかくいわないようにしてほしい」17名、その他5名という要望があげられた。

### 3. 出産前の生活と現在の生活

回答者の最初の性体験（性交）は、「16歳未満」1名(0.5%)、「16歳～19歳未満」50名(23.3%)、「19歳～25歳未満」が141名(65.6%)、「25歳以上」20名(9.3%)であった。

最初に具体的な避妊のしかたを教えてもらった相手（複数回答）は、「小学校の先生から」7名、「中学校の先生から」22名、「高校の先生から」20名、「親から」1名が教えられている。「友人・知人から」42名、「雑誌・本などで」61名というものもある。その他では、「相手（夫）から」15名、その他が2名、「覚えていない」も37名いる。

妊娠する前に子どもについてどのように考えていたのかきいたところ、「すぐにでも自分の子どもが欲しいと思っていた」のは54名(25.1%)、「適当な時期になったら自分の子どもが欲しいと思っていた」のが106名(49.3%)であった。「いつかは子どもをもつようになるだろうとばくせんと考えていた」のは46名(21.4%)、「自分の子どもをもつことなどほとんど考えたことがなかった」ものが4名(1.9%)、「子どもは欲しくないと思っていた」ものが1名(0.5%)、その他1名(0.5%)であった。

第1子を出産するにあたり、それまでの妊娠経験をきいたところ、「はじめて」が153名(71.2%)、「2回目」が44名(20.5%)、「3回目」が12名(5.6%)、「4回目」、「5回以上」が各々2名(0.9%)あった。2回目以上の妊娠経験があるものに人工妊娠中絶の経験をきいたところ、「ない」が30名、「1回ある」が30名、「2回ある」が9名いた。

回答者の最終学歴は、「中学卒業」が3名(1.4%)、「中卒各種学校卒業」1名(0.5%)、「中卒各種学校中退」1名(0.5%)、「高校卒業」が93名(43.3%)、「高校中退」が3名(1.4%)、「高卒専門学校卒業」1名(0.5%)、「高卒専門学校中退」1名(0.5%)、「短大中退」が1名(0.5%)、「大学卒業」22名(10.2%)、その他3名(3.2%)であった。

現在、どのような生活上の援助（複数回答）をうけているかをきいたところ、自分の親からは「住居のことで世話になっている」10名、「生活費のことで世話になっている」12名、「お小遣いや品物をときどきもらう」107名、「家事を手伝ってもらう」11名、「子どもの世話をしてもらおう」68名、「家事や育児の相談にのってもらっている」94名、「悩みや将来の問題を相談する」68名、という援助をうけていることがわかった。一方「とくにない」というものが9名いる。また親はいないという回答も2名あった。相手（子の父）の親からは「住居のことで世話になっている」32名、「生活費のことで世話になっている」26名、「お小遣いや品物をときどきもらう」87名、「家事を手

伝ってもらおう」37名、「子どもの世話をしてもらおう」69名、「家事や育児の相談にのってもらっている」50名、「悩みや将来の問題を相談する」26名であった。「とくはない」というものも14名、親はいないという回答も2名ある。

現在就労については、148名(68.8%)が就労していないと回答している。就労していると回答した60名(31.2%)の就労形態は、「フルタイムの勤務」が21名、「パートなどの勤務」12名、「家業の手伝い」が14名、その他が13名である。

現在のくらしむき(経済状態)は「かなり楽である」5名(2.3%)、「楽なほうである」57名(26.5%)、「どちらともいえない」101名(47.0%)、「苦しいほうである」41名(19.1%)、「かなり苦しい」8名(3.7%)であった。若年出産者と比較すると「苦しいほうである」割合が減り、その分「どちらともいえない」の割合が多い。

住宅は「自分・夫(相手)名義の持ち家」44名(20.5%)、「自分の親の持ち家」13名(6.0%)、「夫(相手)の親の持ち家」51名(23.7%)、「公営賃貸住宅」23名(10.7%)、「民間賃貸住宅」46名(21.4%)、「社宅・官舎・社員寮」33名(15.3%)、その他2名(0.9%)となっている。

### (3)非若年出産者との比較からみた

#### 若年出産者の特性

##### 1. 調査対象者の諸特性

前記の2つの調査の有効回答票によると、非若年出産者の第一子出産時の平均年齢は26.9歳である。若年出産者の第一子出産時の平均年齢は18.3才である。したがって、非若年出産者と若年出産者の出産時平均年齢差は8.6歳であった。

若年出産者と非若年出産者の調査結果を比較すると、以下の点が特徴的であった。

## 2. 医療・保健サービスへのアクセス

非若年出産者の大部分のものは比較的早い時期に妊娠に気づき、気付いてからすぐ受診している。(図1) 若年出産者の場合は、気付くのが遅く、また受診した時期も遅くなっている。

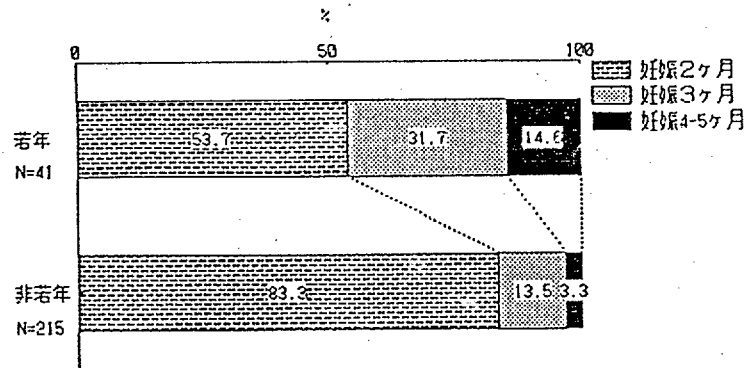


図1 妊娠に気づいた時期

非若年出産者は妊娠5ヵ月以前に9割以上が母子手帳の交付を受け、若年出産者は妊娠5ヵ月以前に母子手帳の交付を受けたものは6割強にすぎず、分娩時または分娩後に交付を受けたものも存在する。(図2)

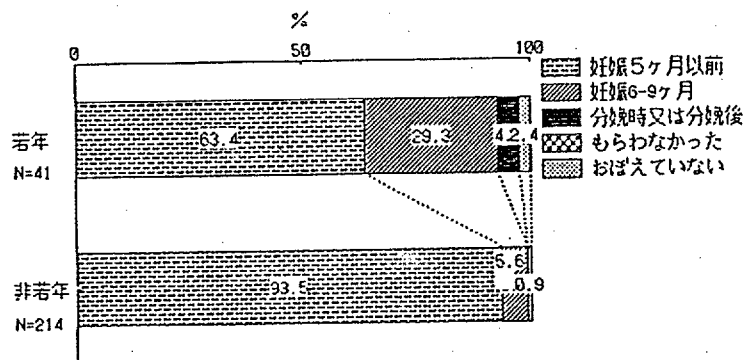


図2 母子手帳交付の時期



妊娠中の身体の問題や異常について、非若年出産者の約4割が問題や異常が「あった」と答えているが、この傾向は若年出産女性の場合と同じである。また、分娩前後に心配になるような身体の問題や異常が「あった」ものは若年出産者に比べ非若年出産者のほうが若干多かった。妊娠中の定期健診は非若年出産者はほぼ全員が医師の指示通り定期検診を受けている。医師の指示通りに受けたものは非若年出産者より若年出産者のほうが少ない。

(図3)

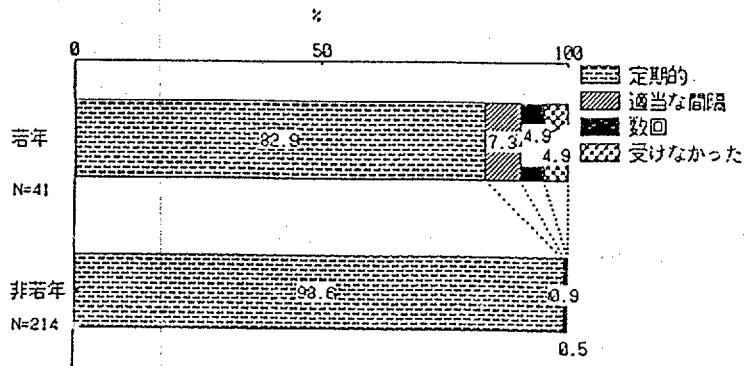


図3 受診状況

母親学級を受けた割合も大きく異なっている。非若年出産者は母親学級の「コースを修了」したものは2/3を占め、修了しないまでも母親学級を受講したものを含めると9割弱になる。一方若年出産者は、母親学級の「コースを修了」したものは1/4にすぎず、受講しなかったものが6割を占めている。

子どもの最初の乳児健診を「3ヵ月未満」でうけた割合は非若年出産者で9割にたいし、若年出産者は8割と、若干低くなっている。(図4)

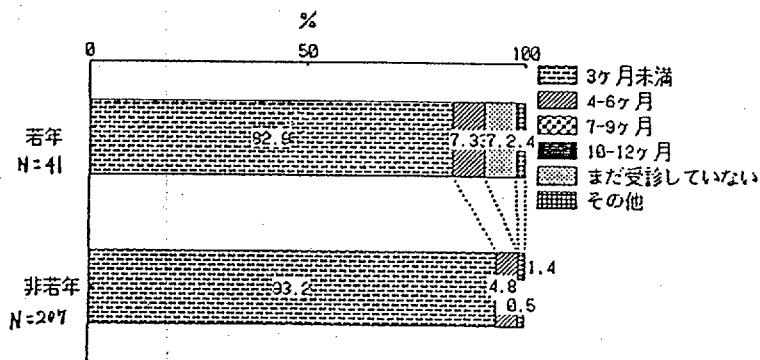


図4 乳児健診初診時期

### 3. 妊娠・出産についての意識

約7割の非若年出産者、およびその相手（子の父）は妊娠を喜びをもって受け止めているが、若年出産者とその相手はその割合が少なく、約半数が「うれしさと当惑が半々」という心境だった。（図5、6）

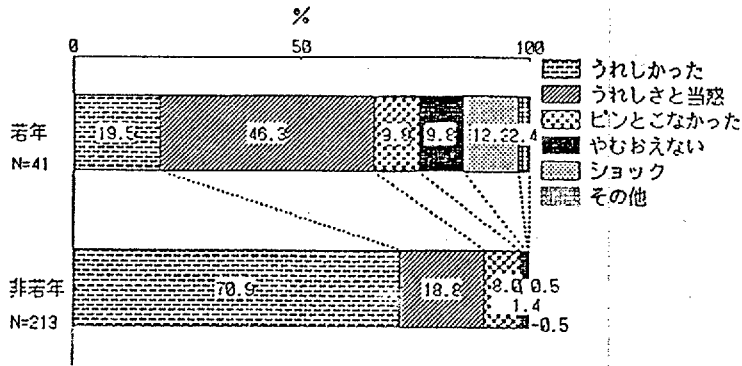


図5 妊娠判明時の回答者の気持ち

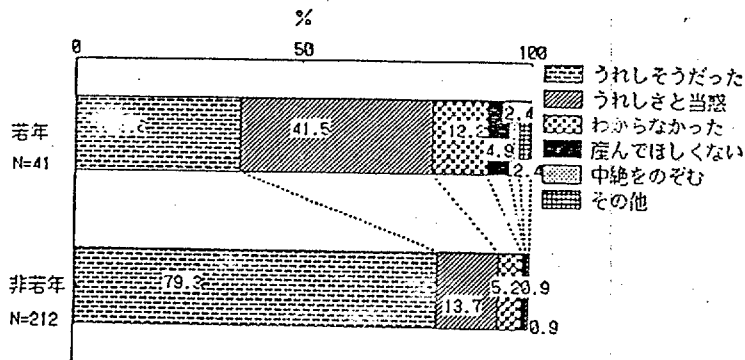


図6 妊娠判明時の相手（子の父）の気持ち

中絶について、非若年出産者の大多数が全く考えなかった。中絶を考えた若干のものも、「ちらと頭をかすめた」程度である。それにたいし若年出産者では中絶を考えたものも多く、その程度も、産むべきか悩み、「真剣に中絶を考えていた」ものの割合が多かった。

妊娠から出産にいたるまでの気持ちの変化は、非若年出産者は「親になることの自覚や期待が強くなるものが多いが、若年出産者は「自覚や期待が強くなった」ものと、「負担や不安が強くなったもの、どちらともいえないものに3分される。（図7）

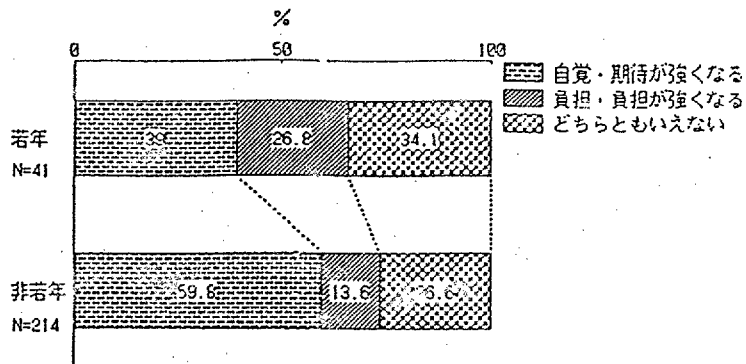


図7 親になることについての気持ちの変化

今回の妊娠・出産をふりかえって、若年出産者の約4割、非若年出産者の約6割がつかずになかったと答えている。逆に今回の妊娠・出産をふりかえって全体的によかったと思うことの各項目のポイントが、非若年出産者では若年出産者に比べて高い傾向にある。

避妊のしかたを教えてもらった相手に関する結果は、非若年出産者と若年出産者として大差がなかった。妊娠する前の子どもについての考えも非若年出産者と若年出産者とはあまり差がない。

#### 4. 妊娠・育児の悩みと相談相手

妊娠中の悩みについては、総体として非若年出産者のほうが若年出産者に比べて少ないにもかかわらず、相談相手については恵まれていることがわかる。

子育ての悩みについては、「経済的に苦しい」、「生活の不安」が若年出産者に多いこと以外は非若年出産者と若年出産者を比較しても大きな差は見られなかった。しかし、非若年出産者は子育てについて親やきょうだいと相談するものが多く、また若年出産者と比較すると大部分の項目で相談相手となるポイントが高い。(図8)

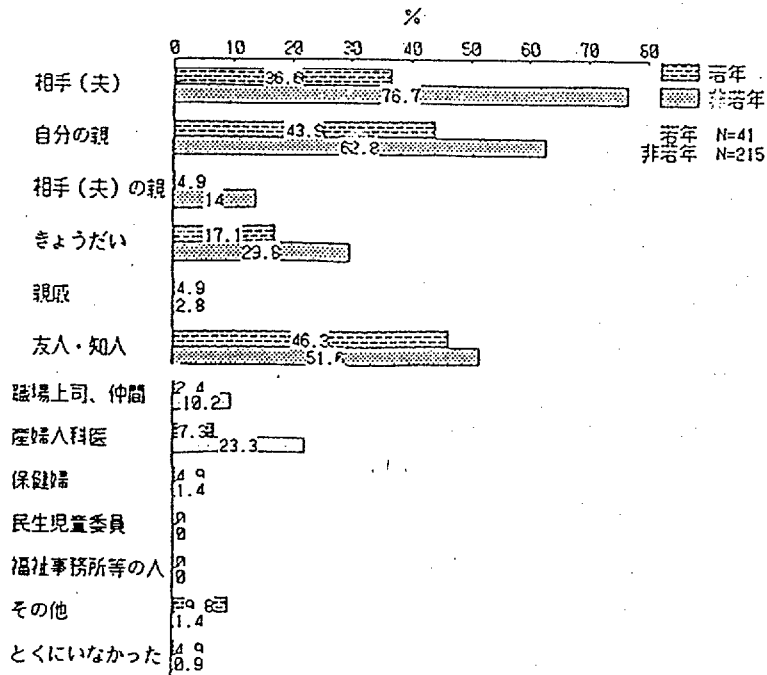


図8 妊娠中の相談相手（複数回答）

### 5. 婚姻・同居関係

妊娠がわかった時、非若年出産者と相手（子の父）とは9割が結婚（届出）していたが、若年出産者では2割しか結婚（届出）しておらず、その他は不安定な関係にあった。（図9）現在の同居関係では非若年出産者のはほぼ全員が相手（子の父）と同居しているが、若年出産者は8割しか同居していない。同居家族を比較すると、非若年出産者は「子どもと相手（子の父）と同居（核家族）」、または「子どもと相手（子の父）とその親との同居（三世代家族）」が多いが、若年出産者はその割合が減り、「子どもと同居（ひとり親家族）」、または「子どもと自分の親との同居（ひとり親家族で祖父母と同居）」の割合が多い。

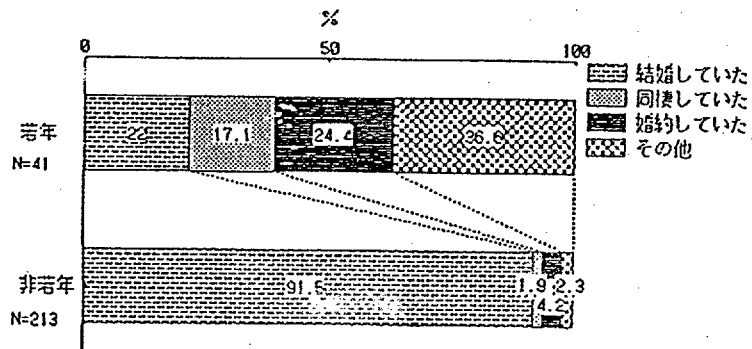


図9 妊娠判明時の婚姻関係

## 6. 経済状況とそれへの援助

出産費用については、非若年出産者は大部分のものが自分と相手（子の父）で用意しているが、若年出産者ではその割合が少なく、相手（子の父）や自分の親が用意している割合が多い。（図10）

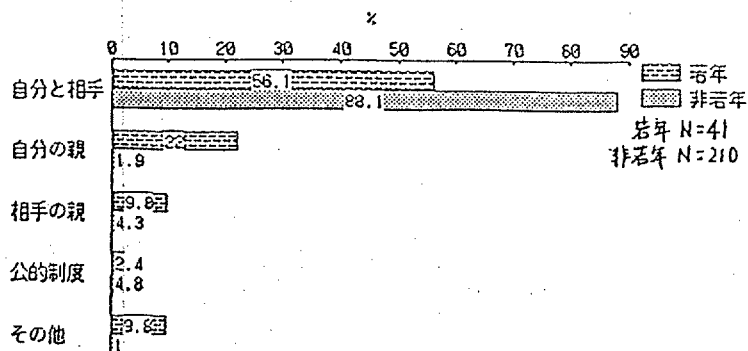


図10 出産費用の負担者

出産直後の回答者本人や子どもの世話は、非若年出産者は回答者の母親やきょうだいにみてもらっているが、若年出産者ではその割合がすくなく、その分相手（子の父）の親に面倒をみてもらったり、ひとりで子どもの世話をしたものが多くなっている。

現在の親からの生活上の援助は、若年出産者は住居や生活費のことで自分の親に援助を受けている割合が多く、非若年出産者は家事・育児の相談や悩みや将来の問題について相手（子の父）の親に相談する割合が多い。非若年出産者に比べ若年出産者には、自分の親にも相手（子の父）の親にもとくに援助を受けていないという割合も多い。

現在のくらしむき（経済状態）は、非若年出産者は若年出産者とくらべ、「苦しいほうである」割合が減り、「どちらともいえない」割合が多くなっている。（図11）住宅事情については、非若年出産者は若年出産者に比べ持ち家率が高く、なかでも自分・相手（子の父）名義の持ち家が多いことが特徴的である。

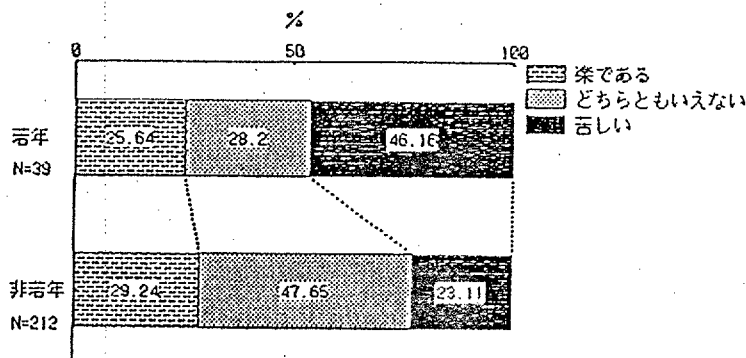


図11 現在のくらしむき（経済状態）

## 7. まとめ

以上の調査結果から、非若年出産者とくらべて、若年出産者にはいくつかの特徴的な傾向が見受けられる。それらを前提として、若年出産者に対する社会的援助のありかたを検討していく必要がある。

なお、この調査においては、若年出産者には保健婦の訪問・聞き取り調査、非若年出産者に対しては調査票配布調査を実施している。このなかでの若年出産者の回答率は43.6% (94名中41名回答) と必ずしも高くはなく、サンプルの代表性という観点からみて若干の検討を要するといえよう。調査不能となったものが少なくなかったことの背後にはいくつかの要因が考えられる。当然、一般的に見受けられるこの種の訪問調査への否定的反応であろう。しかしそれに加えて、かりに若年出産に対する否定的な自己評価（自己に対する周囲の視線をも含めて）があれば、このような調査には応じたくないということになるだろう。また、若年出産者の現在の生活のなかにある諸困難が、調査に応じにくい状況を生んでいるかも知れない。そうであるとすれば、むしろ非回答者の状況のなかに、われわれが知らなければならない事実があるということになるのである。

たとえば、一般的に、若年出産者には「非婚」で妊娠するものの比率が高いことが想像される。非婚状態での妊娠は、出産への準備状態が不十分であることを意味しているばかりでなく、多くの場合、周囲に受け入れられにくい社会的な立場に当事者を置くことになる。この調査でも、非若年出産者にくらべて若年出産者に非婚妊娠の比率は高くなっているが、仮説として考えられるのは、調査対象となった若年出産者全体における非婚比率はさらに高く、そのうちで相対的に調査に応じやすい状況にある既婚者が回答者になっているということである。この調査結果にはそのような含意があることを前提として、読み取りを行わなければならないことになろう。

調査結果から抽出されたのは、第一に、若年出産者の医療・保健サービスへのアクセスという点である。若年出産者は非若年出産者にくらべて、妊娠に気付くのが遅く、したがって受診時期が遅れ、母子手帳の交付を受けるのも遅くなる傾向がみられる。また、母親学級を受講状況や乳児健診の受診状況が非若年出産者にくらべて低率であることも、子どもの発達という観点からみた場合に気になるところである。妊娠に関する知識や注意が不十分であるためか、それとも妊娠への関心を回避しているのか、若年出産者には、妊娠という出発点においてすでに医療・保健サービスへのかかわりかたに消極的な傾向が見受けられ、それは母子手帳の入手や乳児健診の受診など、子どもの健康管理や発達への関心にも影響を与えている。こうした傾向が、妊婦や産児の実際の健康面にまでどれだけの影響を及ぼしているのかは、今回の調査結果では明らかにされていないが、今後の母子保健領域における課題の一つとして指摘されよう。

第二に、若年出産者の妊娠・出産の受け止めかたにみられる特徴である。想像されることではあるが、非若年出産者にくらべて、妊娠を当惑あるいはそれ以上に否定的な気持ちをもって受け止める者の比率が高く、単純に喜びをもって受け止める者の比率が低いのが目立つ。こうしたことから、若年出産者のなかには、当初は予定外の妊娠に驚いたり、困

惑したり、悩んだりしながらも、最終的には出産に至るものが少なくないことがわかる。当然ながら、中絶を考えたかどうかについても、同様の傾向である。若年出産者には、非若年者に比べて、出産が近づくとつれて負担や不安が強くなる者が多くみられるのも、こうしたことと関連しているのかも知れない。このように、妊娠から出産に至るまでのあいだに心理的な葛藤どのように乗り越えるかが、多くの若年出産者に共通する課題といえよう。

第三に、若年出産者の抱える問題とその解決を支える親族関係では、何よりも自分の親やきょうだい（いわゆる「身内」）との関係には特徴的な傾向があるように思われる。妊娠・出産・育児にともなう悩みについてみると、若年出産者よりも非若年出産者のほうが相談相手に恵まれた状況にあるものが多い。とくに、若年であるほど親族の援助が大きな意味をもつと考えられるにもかかわらず、調査結果からは、逆に非若年出産者のほうが親やきょうだいなどの親族と相談するものの比率が高いのが、気になるところである。また、若年出産者では、出産直後の世話を「身内」にしてもらっているものの比率が、非若年出産者に比べて低いことも、こうした親族関係の傾向のあらわれであろう。若年出産者の悩みの特徴は、経済的な問題を抱えている者が多いことである。このことと関連して、身内から経済的な援助を受けている者は少なくないのであるが、身内はやむを得ずそのような援助をしながらも、必ずしも諸々の悩みを相談する相手にはなっていない場合が少なくないようである。親族からの援助を必要とする状況にありながら心理的に距離のある関係が、若年出産者の親族関係の特徴としてうかがわれるのである。

最後に、若年出産者のなかには、妊娠判明時に法律上の結婚をしていた者の比率がきわめて低いという特徴をあげておく必要がある。このことは、妊娠・出産・育児への準備状態の不十分さをあらわすばかりでなく、当事者がおかれている社会的な立場としての困難をうかがわせるものである。そこには、妊娠という事態への困惑から出発して、出産を決意あるいは受容するまでの葛藤、出産から育児へという新たな状況への具体的な対処をするまでの過程で避けられないさまざまな困難、その克服のための努力などが想像されるのである。妊娠時に非婚であるという状況にみられる特性は、若年出産者への社会的な支援体制のありかたを考えるうえでとくに重視しなければならない点であると思われる。

# ハイリスク若年出産者の事例

—医療・社会福祉機関及び施設の利用実態から—

## 研究目的：

若年妊娠・出産の医学的・社会的支援策を探るにあたり、若年出産者（10代出産者）のうち既存の社会福祉施設の利用者についての事例研究を行い、次の点を明らかにする。

- ①施設利用を伴った若年出産者の、妊娠から出産及びその後の生活にいたる経緯
- ②上記の過程における医学的・社会的支援の現状

## 研究対象：

施設利用者のうちの非婚若年出産者

\*今回対象となった施設は、乳児院及び婦人保護施設（出産前後の諸困難に対応する機能を主とするもの）である。

## 研究方法：

施設利用者の中から対象者を抽出し、施設職員からの聞き取りと記録をもとに、事例として構成した。これを分析する枠組みとして、妊娠前から出産後までを4つのステージに分けた時間軸でとらえ、当事者（本人と子の父）をめぐる支援体制を、以下のような資源という観点から整理した。

- a. 私的資源…本人の家族、子の父の家族、親族、友人など、個人的なかかわりの中で支援を提供する存在
- b. 公的資源…医療機関、社会福祉施設など、公的なかかわりの中で支援を提供する存在
  - (1)医療機関
  - (2)その他の機関…社会福祉施設・その他の公的機関



## 分析結果の要約：

◎非婚若年出産者が社会福祉施設利用にいたる経緯をみると、支援が不足する現状として次のような点を指摘することができる。

- ・子の父は、妊娠判明以後の経緯の中で本人との関わりが薄くなり、出産・養育への参加が期待できない。
- ・本人の生育家族が生活上の困難を抱えているために、本人への十分な援助が成し得ない場合も少なくない。
- ・非婚若年出産者に対する社会的承認の低さが、家族及び周囲からの援助を得る時の制約になっている。

◎社会福祉施設は、本人の自立及び子の養育への社会的支援として以下のような機能を果たしていることがわかる。

- ・準備状況のない妊娠出産に対して、出産前後に不可欠なサービスを提供し、周産期の母子保健を支えるための人的・物的環境を整える。
- ・他の公的機関（医療機関、他の福祉機関など）へのアクセスが、当該の社会福祉施設利用を起点に展開されるようになる。
- ・社会福祉施設利用は、本人ならびに家族が、子の養育や本人の自立を回復するための物理的・心理的準備状態を整える上で、大きな役割を果たしている。

## \*\*事例の見方\*\*

- ・「本人」とは、非婚若年出産者自身をさす。
- ・本人の妊娠の相手となった男性は、「子の父」と表現した。
- ・本人の生育家族のうち、曲線で囲んである部分は、妊娠判明時に本人と同居していた家族員である。父母が離婚している場合は×で示している。
- ・「非婚若年出産のプロセスと資源」の表中での網かけは、本人の妊娠・出産に対する支援があったとみなされる部分である。

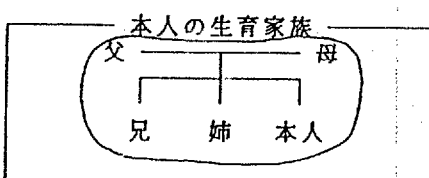
なお、事例の記述にあたっては、対象者のプライバシーを保護するため、概要を損わない程度に、修正を加えている。

## 乳児院利用を経て養育・自立が可能となった事例

### ◆事例の概要

本人

\* 出産時年齢：19歳  
 \* 最終学歴：高校中退  
 \* 妊娠判明時の職業：不明



子の父

\* 年齢：19歳  
 \* 非行グループのリーダー的存在

### 【利用施設】

乳児院を約1年利用する。

### 【妊娠・出産に至る経緯】

友人のボーイフレンドの友達ということで子の父と知り合い、外見のかっこよさに惹かれて交際。子の父は地域の非行グループのリーダー的存在で、これをなんとか更正させようと付き合いを続けるため、本人は高校を中退するが、交際中に少年院に入所となる。

退所後、子の父の実家（親同居のもと）で2ヵ月半ほど同棲し、この間に妊娠。本人は、子どもができれば子の父が更正すると考え、子の父の両親もそう主張して出産を希望する。しかし、子の父は本人を省みることなく相変わらずの生活を続け、別な女性（5人ほど）との交際も続けた。本人は子の父に見切りをつけ別れることにしたが、すでに中絶時期を逸しており、出産となった。

### 【出産後の経緯】

出産後は、本人の実家が子の養育が可能な生計状況にないため、本人のみ親元に帰り、子は産院より直接、乳児院に入所した。当初本人は、自分一人で子を育てたいとの気持ちをもちながらも、両親の意向や子の将来を考え、養子縁組を前提とした里親委託を望む形となった。

しかし、入所中本人は頻りに（週1～2回）子の面会に訪れ、この間に仕事をみつけ、1年後には親元からも独立して子を引っ取っての生活を始めた。

### ◆非婚若年出産のプロセスと資源

		～ 妊娠	～ 妊娠 ～	～ 出産 ～	出産 ～	
本人		友人を介して子の父と知り合う 非行グループのリーダーである子の父を更正させようと高校を中退	子の父が更正すると考え、出産を希望	子の父に見切りをつけ、中絶の時期を逸しており出産	本人のみ親元に帰る 乳児院に頻りに面会に行く	仕事をみつけ独立後引き取る
	子の父	子の父の実家で同棲中に妊娠	本人を省みず相変わらずの生活	一切の関与なし		
私的資源		子の父の実家で2ヵ月半ほど同棲	子の父の家族は、子の父がまじめになると考え、出産を望む		本人は実父母と同居	本人は独立する
公的資源	医療機関		受診歴不明	陣痛により、近くの産院に電話連絡して入院し、出産する		
	その他の機関				退院後、子は乳児院入所	本人が子を引取る

# 乳児院利用を経て本人の家族が養育意欲をもつようになった事例

## ◆事例の概要

<p style="text-align: center;">本人</p> <p>* 出産時年齢：15歳</p> <p>* 最終学歴：専門学校中退</p> <p>* 妊娠判明時の職業：なし</p>	<p>本人の生育家族</p> <pre>       父       母                         +-----+                                本人             妹                     </pre>	<p style="text-align: center;">子の父</p> <p>* 年齢：15歳</p> <p>* 本人の中学校の同級生</p>
--	---	--

### 【利用施設】

乳児院を利用する。

### 【妊娠・出産に至る経緯】

中学3年時、同級生である子の父と交際し、妊娠。子の父は中絶を希望したが、お金がなくどうしたらいいかわからないでいるうちに、その時期を逸した。

妊娠約8カ月頃、お腹が目立ち始めて本人の実母が妊娠を疑い、産婦人科を受診させる。どうしても中絶させたいと産婦人科を3件まわるが、不可能であると言われる。3件目の産婦人科で「このままではみっともなく家に連れて帰れない、このまま出産まで入院させて欲しい」と懇願した。産婦人科医師は乳児院に連絡し、特例として妊婦を乳児院に一時入所させた。子の父側の両親との話し合いでは、結婚できる年齢になったら結婚させようという話を、この段階ではしている。

### 【出産後の経緯】

出産後、病院より本人と子と一緒に乳児院に入所するが、数日後、本人のみが親元に退所した。本人も、いづれ引き取りたいとの意向で面会に訪れていたが、それ以上に当初本人の妊娠・出産に拒絶的であったその実父母（とくに実母）が頻繁な面会を継続する中で、子の養育に熱意を示し始めた。

その後、実父母は周囲が口うるさい市営住宅を転居して引き取りの準備を進め、子は乳児院を退所し、本人の妹として養育されている。

子の父は、乳児院入所時同行。その後も本人と2人で1度面会にきたが、後は関与せず、本人とは別れた。その両親も「（息子は）遊びたいさかりだから」とこれを認め、本人及びその家族との関係は、この後切れている。

## ◆非婚若年出産のプロセスと資源

		～ 妊娠	～ 妊娠 ～	～ 出産 ～	出産 ～	
本人		中学3年時、同級生である子の父と交際	妊娠の疑いをもち、子の父に相談	（あいまいながら、養育、結婚の意志はあった様子）	乳児院に面会に行く	乳児院退所後本人の妹として養育
	子の父		子の父は中絶を希望するがお金がなく、相談者もないまま時期を逸する	出産までは、いづれ可能となったら結婚すると言っていた	乳児院入所時同行する1度面会する	その後は関与せず、本人とは別れている
私的資源			母親が8カ月頃、本人の妊娠に気付き産婦人科を受診させる（養育に関して経済的に困難であること、周囲が悪いなど妊娠・出産に対してきわめて否定的）	妊婦である本人を家に連れて帰れないと、初診時に産婦人科に入院を希望する		本人のみ実母が引き取る（実父も乳児院に面会に行く） 乳児院より引き取り、本人の妹として養育する
公的資源	医療機関		妊娠8カ月まで受診歴なし	妊娠8カ月頃に実母が入院を希望し3件目の産婦人科で乳児院を紹介される	産院にて出産	
	その他の機関				退院後、本人と子とともに乳児院に入所	数日後、本人のみ退所 子は乳児院に引き継ぎ入所 子ども退所する

## 乳児院利用を経て親元での養育が可能となった事例

### ◆事例の概要

<p style="text-align: center;">本人</p> <p>*非婚出産年令：17歳</p> <p>*学歴：定時制高校中退</p> <p>*妊娠判明時の職業：なし</p>	<p>本人の生育家族</p> <pre>       父 ----- 母                        -----                                本人       妹           </pre> <p><small>*実父母は離婚*母、本人と妹、母の二人の弟(分産前)と同居</small></p>	<p style="text-align: center;">子の父</p> <p>*年令：22歳</p> <p>*学歴：中学校卒業</p> <p>*中卒後、定職につかず</p>
---	--	---

### 【利用施設】

乳児院を2年2ヵ月利用する。

### 【妊娠・出産に至る経緯】

スーパーのレジで働いていたが、子の父(22歳)と知り合い、本人は結婚するつもりで二人で他地域へ行き生活を始める(本人は家出状態)。しかし、二人の生活はうまくいかず、帰郷し、自宅へ戻る。その後、実母から妊娠を指摘され、受診したところ妊娠8ヵ月であった。子の父に妊娠したことを告げると、「自分の子ではない」と言ったり、「育てる」と言ったり、態度がはっきりしない。また、暴力を振るうようになったため、子の父とは別れる。(子の父は、違う女性との間にも子があった)

出産後については、実家でも養育困難なため、実母と共に福祉機関に相談に行く。入院助産の手続きをとり、助産施設(産院)で出産する。(本人の意志は不明)

### 【出産後の経緯】

出産後は、本人のみ親元へ帰り、子は産院より直接乳児院に入所となる。入所中は、初めは面会など全くない状態であったが、途中から面会と子の外泊が頻繁となる。本人が子を引き取り、本人の親元で養育することとなった。

### 【特記事項】

上記のように、本人は妊娠判明時には、本人の実母と妹と本人の実母の二人の弟と同居している。本人の実母の二人の弟は、分裂病で入退院を繰り返しており、この時点においても弟の一人は入院中であった。このため一家を本人の実母一人で支えている状況である。

### ◆非婚若年出産のプロセスと資源

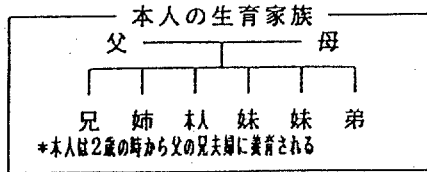
		～ 妊娠	～ 妊娠 ～	～ 出産 ～	出産 ～	
本人		スーパーのレジで働いていたが、子の父と知り合い、結婚するつもりで二人で他地域へ行き生活を始める(本人は家出状態)			乳児院入所は殆どなかったが、途中から頻繁になる	乳児院から子を取る
	子の父	しかし二人の生活はうまくいかず、帰郷して本人は自宅へ戻るその後、妊娠が判る	妊娠告知後、「自分の子ではない」と言ったり「育てる」と言ったりはつきりせず(動かさぬようになったため、子の父とは別れる)			
	私的資源		本人と実母、妹、実母の弟二人が同居	実母が妊娠を指摘し受診に至る	退院後、本人のみ親元へ帰る	子を引き取り本人の親元で養育
公的資源	医療機関		本人は妊娠に全く気付かず	実母の指摘により受診妊娠8ヵ月であった	入院助産により出産	
	その他の機関			出産後、養育不可避と判断して福祉機関に相談する。入院助産の手続きをする	退院後、子は乳児院に入所し2年2ヵ月利用する	子を本人が取り親元で養育

## 乳児院利用を経て里親委託となった事例

### ◆事例の概要

本人

\*非婚出産年齢：18歳  
 \*学歴：中学校卒業  
 \*妊娠判明時の職業：なし



子の父

\*子の父は特定できず

### 【利用施設】

乳児院を1年10ヵ月利用する。

### 【妊娠・出産に至る経緯】

本人は中絶経験があるため、何となく妊娠には気付いていたが、以前勤めていたところから借金を負わされていた等のため、家族には相談できなかつた。知人（本人の姉の以前の勤務先の経営者）を頼り、受診に至る。初診時には妊娠6ヵ月であった。複数の異性と交際していたため、子の父は特定できない。出産までは知人宅で生活を送る。（経営者、その息子、その内夫と同居）

### 【出産後の経緯】

出産後は、妊娠時から世話になっていた知人宅（本人の姉の以前の勤務先の経営者）に戻る。その後、福祉機関に相談に訪れる。本人は自分で育てたいという気持ちを持ちながらも、働かなくては生活ができず、子どもは乳児院入所となる。乳児院入所中、本人の面会等は全くなく、最終的に子どもは里親委託となった。

### 【特記事項】

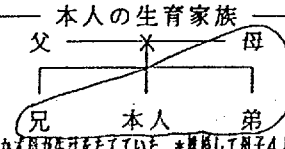
本人の生育家族（実父母・本人を育てた父の兄夫婦）の支援は得られていない。

### ◆非婚若年出産のプロセスと資源

		～ 妊娠	～ 妊娠 ～	～ 出産 ～	出産 ～
本人			妊娠には何となく気付いていたが、家族に相談できず	子どもは自分で育てたいが、働かなくては生活できず、施設委託を希望	子どもは乳児院に入所する 入所中、面会等は1度もなく、行方不明となる
子の父		複数の異性と交際があったため、子の父は特定できず			
私的資源			本人の姉の以前の勤務先の経営者を頼り、子を施設に委託するまで、経営者宅で過ごす （経営者、その息子、その内夫と同居）  本人の実父母からの支援は受けられず		
公的資源	医療機関		知人に相談して受診（初診時、妊娠6ヵ月）	産院にて出産	
資源	その他の機関				子の施設委託希望のため、福祉機関に相談あり。子は乳児院に1年10ヵ月入所  子は里親委託となる

# 婦人保護施設利用を経て親子関係が修復された事例

## ◆事例の概要

本人 *非婚出産年齢：18歳 *最終学歴：高校卒業 *妊娠判明時の職業：不明	本人の生育家族  *父が働き母が生活を支えていた *離婚して母子4人暮らし	子の父 *年齢：19歳 *名前は不明
---	--	--------------------------

【利用施設】  
 婦人保護施設を2ヵ月半利用する。

【妊娠・出産に至る経緯】  
 本人が高校3年の夏に、町中で声をかけられて知り合った1歳年上の男性（子の父）と親しくなる。名前は不載明であり、数回会っただけで交際は切れている（本人は子の父を高校の先輩だと言っているが、卒業名簿には不載っていない）。高校卒業後の4月に就職したが、長続きせず。実母の作ったお弁当を持ってたまにアルバイトもしたが、殆ど町でぼんやりしていた。実母は、本人は仕事に行っているものと思っていた。本人が妊娠に気付いたが、以前から母娘間に会話は殆どなく、相談できずにいた。妊娠を悟られるまいと今まで以上に実母との接触を避け、部屋に閉じこもり、食事も一人ですべてしていた。一時は自殺も考えている。自宅に一人でいる時に風呂場で墜落分娩し、救急車で運ばれることになる。

【出産後の経緯】  
 本人と実母の関係が悪いことから、退院後に自宅に戻ることができず、実母が福祉事務所に相談に行く。その翌日には実母・伯父夫婦とでワーカーと話し合いをもつ。このことをきっかけにして母娘のよい関係作りに役立てていくこと、家族・親族・福祉事務所と連携をとりながら本人の支援を考えていくことが確認される。この2日後にはワーカーが病院に行き、本人と面接。その2日後に婦人保護施設に子と共に入所することになる。入所中は、実母・兄弟・伯父の面会がある。また、実母に対して施設の職員より、娘の教育についての助言もなされ、実母も徐々に自信を回復するようになる。本人も実母との同居を希望するようになり、親元に退所する。

【特記事項】  
 出産を契機に、福祉事務所・婦人保護施設といった公的機関が関わるようになるが、これらの機関は単に出産に対する支援を行なうだけではなく、不調をきたしている親子関係へのアプローチを継続的に展開している。このことが、本人への支援として有効に機能したと思われる。

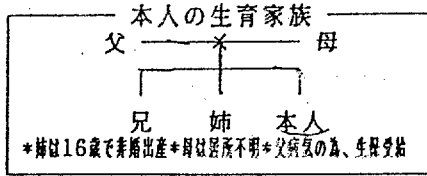
## ◆非婚若年出産のプロセスと資源

		～ 妊娠	～ 妊娠 ～	～ 出産 ～	出産 ～	
本人	子の父	高校3年の夏、道で声をかけられた男性と親しくなり妊娠する 数回会っただけで交際は切れている	妊娠を実母に悟られまいと、部屋に閉じこもり、自殺も考える 食事一人でする	高校卒業後の7月、自宅一人でいる時に風呂場で出産する	退院後すぐに婦人保護施設に子と共に入所	親元退所する
			接触はない			
私的資源		実母・本人・兄・弟が同居している	以前から母娘間に会話が殆どない状態であり 本人は相談できずにいた 友人にも知らせず		実母・伯父夫婦・兄弟が面会 出生届を提出 実母が出す	実母・伯父夫婦が面会 行く
公的資源	医療機関		出産まで受診せず	自宅でお産した後、救急車で運ばれる	1ヵ月ほど入院する 本人は健康	
	その他の機関	生活保護受給			妊娠の開始から退院までの間は 実母が福祉事務所に相談に行く	婦人保護施設には母子生活支援センターが同行 母子生活支援センターに立ち会う

# 婦人保護施設で子の養育を学んだ事例

## ◆事例の概要

**本人**  
 \*非婚出産年齢：15歳  
 \*最終学歴：中学校卒業  
 中学2年から殆ど登校していない  
 \*妊娠判明時の職業：なし



**子の父**  
 \*年齢：15歳  
 \*母子家庭  
 \*本人の近所に居住(中学は別)

### 【利用施設】

婦人保護施設を約2ヵ月利用する。

### 【妊娠・出産に至る経緯】

中学1年の冬休みに、友人から紹介された同年齢の男性(子の父)と付き合い始める。子の父は母子家庭であり、夜になると母親が働きに行ってしまうので、家で会っていた。妊娠が判った時には本人は中絶を望んでおり、中絶費用は子の父が用意すると言っていたが用意できず。そのうち、本人は子どもがかわいそうになって産むことになる。子の父とは妊娠5~6ヵ月頃までは頻繁に会っていたが、その後は本人に電話もかかってくる。本人からの電話にもでず、電話番号も変えた様子である。周囲の人は妊娠に気付かず。本人は病院に行かないまま中学校の卒業式の数日後に陣痛が起きる。このため近所の産婦人科に受診し、同日、出産に至る。

### 【出産後の経緯】

本人の実父は、本人が出産して初めて妊娠していたことを知る。最初は怒ったが、子を可愛がるようになり、名前も実父が付ける。子が泣くと実父が抱いて、その間に本人がミルクを作るといったやり方で実父と本人で養育にあたり、近所の人もおむつのある方を教えてくれたりしていた。しかし、実父が病気のために入院しなければならなくなり、生活保護を受給するようになる。実父が入院した後、本人と子だけの生活では育児が困難であることが、実父が福祉事務所に相談をし、本人と子は婦人保護施設に入所することになる。初めの頃は、本人は実父が退院したら早く自分も退所して同居したいという希望であったが、次第に育児の難しさを理解し、暫らく育児を学んでから退所することを望むようになる。

### 【特記事項】

福祉事務所への相談を契機に、婦人相談所・児童相談所にも結びつき、児童福祉司・心理判定員の面接や職能テストの実施などがなされている。婦人保護施設の職員は、児童福祉司に退所後の訪問指導も依頼しており、婦人保護施設がネットワークを推進する機能を果たしている。また、婦人保護施設利用中に1ヵ月検診や小児科受診、本人の健康診断も行なわれており、医療機関へのアクセスも確実になされている。

## ◆非婚若年出産のプロセスと資源

		～ 妊娠	～ 妊娠 ～	～ 出産 ～	出産 ～		
本人	子の父	中学1年の冬に友人に紹介されて付き合い始める	中絶したいと思う そのうち子がかかわるようになる	子の父に連絡がとれなくなる	中学校の卒業式の数日後に出産する	実父が入院し、子と共に婦人保護施設に入所する	子と共に退所する
			妊娠5～6ヵ月までは頻繁に会う	中絶費用を用意すると言っていたが用意できず、電話にもでなくなる			
私的資源		本人と実父が同居している		本人が出産して初めて実父は妊娠していたことを知る	実父と育児を手伝う近所の人がかかわる	実父、入院	実父が退院した後も本人と子と共に同居する
公的資源	医療機関	出産まで受診せず		陣痛により近くの産院を受診し、出産する	1ヵ月検診 小児科受診		
	その他の機関					実父は福祉事務所に相談する 婦人保護施設に本人と子が入所する	退所には婦人相談所も同行する

# 資料（調査票）

希必

地域	1	2	サンプルNo	3	4	5
----	---	---	--------	---	---	---

## 若年出産女性の生活と育児に関する調査

松本保健所・豊科保健所・諏訪保健所  
厚生省リプロダクティブヘルス研究班  
(1992.10~11実施)

対象者台帳 No	調査担当者氏名	( 保健所)
----------	---------	--------

個別依頼	受話 ( 月 日 ) ・ 依頼不能 (拒否・留守・その他)
訪問回数	第1回 ( 月 日 ) 第2回 ( 月 日 ) 第3回 ( 月 日 )
訪問結果	実施 ( 月 日 ) ・ 実施不能 (拒否・留守・中断・その他)

実施状況	場所：自宅・その他 ( ) 同席者：なし・あり ( )
特記事項	

(はじめのあいさつ)

私は、先日お願いした調査の件でおうかがいした、〇〇保健所の保健婦の△△と申します。

お忙しいところお時間をさいいただき、まことに申し訳ありませんが、これから、あなたの妊娠・出産・子育てや生活のことについていろいろおたずねいたしますので、よろしく願いいたします。

少し立ち入ったこともお聞きしますが、お答えになった内容がほかの方に知られる心配はありません。また、調査の結果は統計的に処理されますので個人のお名前が出ることは決してありません。どうぞ安心して、できるだけありのままにお答えくださるようお願いいたします。



1. 最初に、今回の妊娠と出産の経過についておうかがいします。

※ 今回以前に出産経験のあるかたも、ここでは、今回の妊娠・出産についておこたえください。

Q1 今回の妊娠に気づいたのは妊娠何ヶ月頃ですか。

- (1) 妊娠2ヵ月 (3) 妊娠4～5ヶ月 (5) 妊娠8ヵ月以降  
 (2) 妊娠3ヶ月 (4) 妊娠6～7ヶ月 (6) おぼえていない

この人は  
つかわないこと

↓  
6

Q2 それでは、妊娠後、最初に受診したのはいつですか。

- (1) 妊娠2ヵ月 (3) 妊娠4～5ヶ月 (5) 妊娠8ヵ月以降  
 (2) 妊娠3ヶ月 (4) 妊娠6～7ヶ月 (6) おぼえていない

7

Q3 すると、最初に受診した時は、妊娠に気づいてからどのくらいたったことになりますか。

- (1) 気づいてすぐ (3) 2ヵ月くらい (5) おぼえていない  
 (2) 1ヵ月くらい (4) 3ヵ月以上

8

Q4 母子健康手帳をいつもらいましたか。

- (1) 妊娠5ヵ月以前 (4) もらわなかった  
 (2) 妊娠6～9ヵ月 (5) おぼえていない  
 (3) 分娩時または分娩後

9

Q5 妊娠してから、定期的に診察を受けていましたか。

- (1) 医師の指示どおり定期的に受けていた (3) 数回しか受けなかった  
 (2) 自分で判断し適当な間隔で受けていた (4) ほとんど受けなかった

10

SQ5-1【Q5で(2)～(4)の人(定期的に受けなかった人)に】それはなぜですか。

- (1) なんとなくめんどろだった (4) 費用のことが心配だった  
 (2) どこに行けばいいかわからなかった (5) その他( )  
 (3) 医者に行くのがいやだった

11

この人は  
つかわたいこと

Q 6 妊娠中に母親学級を受講しましたか。

- (1) 数回からなるコースを修了した (4) 受講しなかった  
 (2) コースの一部だけを受講した (5) その他 ( )  
 (3) 1回だけの学級を受講した

12

SQ 6-1【Q 6で(1)~(3)の人(受講した人)に】どこで受講しましたか。  
【いくつでも】

- (1) 保健所・市町村など (3) その他 ( )  
 (2) 病院・医院など

13

14

15

Q 7 妊娠中に、心配になるような身体の問題や異常がありましたか。

- (1) とくになかった  
 (2) あった ( )

16

Q 8 分娩前後に、心配になるような身体の問題や異常がありましたか。

- (1) とくになかった  
 (2) あった ( )

17

II. 次に、妊娠・出産をめぐるあなたの周囲の状況やあなたのお気持ちをうかがいます。

Q 9 妊娠がわかった時、あなたと相手のかた(お子さんの父親)とはどうい  
うご関係でしたか。【リスト呈示】

- (1) 結婚(届出)していた (5) 恋人の関係だった  
 (2) 同棲していた (6) あまり親しい関係ではなかった  
 (3) 正式に婚約していた (7) たまたまつきあった程度だった  
 (4) 二人のあいだで結婚の約束があった (8) その他 ( )

18

Q 10 妊娠した時、あなたはどのような生活をしていらっしゃいましたか。

- (1) 中学生 (5) 就労  
 (2) 高校生(各種学校を含む) (6) 無職(家事手伝い・主婦など)  
 (3) 大学生(短大・専門学校を含む) (7) その他 ( )  
 (4) 就労+通学(高校・大学など)

19

この人は  
つかわないこと

Q11 その頃、相手のかた（お子さんの父親）はどういう生活でしたか。

- (1) 中学生
- (2) 高校生（各種学校を含む）
- (3) 大学生（短大・専門学校を含む）
- (4) 就労+通学（高校・大学など）
- (5) 就労
- (6) 無職（家事手伝いを含む）
- (7) その他（

20

Q12 妊娠がわかった時のあなたの気持はいかがでしたか。次のうちあなたの気持にいちばん近いものをえらんでください。【リスト呈示】

- (1) うれしかった
- (2) うれしさと当惑が半々だった
- (3) あまりピンとこなかった
- (4) やむをえないという気持だった
- (5) とてもショックだった
- (6) その他（

21

Q13 妊娠がわかった時、あなたは中絶について考えましたか。【リスト呈示】

- (1) 全く考えなかった
- (2) ちらと頭をかすめた
- (3) 中絶すべきかどうか迷った
- (4) 中絶したいと真剣に考えた
- (5) その他（

22

SQ13-1【Q13で(2)~(5)の人（少しでも中絶を考えた人）に】産むことになったのはどんな事情からですか。次のうちいちばんあてはまるものをえらんでください。【リスト呈示】

- (1) 中絶のことはすぐ頭から消えた
- (2) 徐々に産もうという気持に変わった
- (3) 中絶するのがこわかった
- (4) 中絶の費用が出せなかった
- (5) 中絶するには遅すぎた
- (6) 迷っているうち産むことになった
- (7) 相手から産むよう強くすすめられた
- (8) 周囲から産むよう強くすすめられた
- (9) その他（

23

Q14 相手のかた（お子さんの父親）に妊娠を知らせた時、反応はいかがでしたか。次のうちいちばんあてはまるものをえらんでください。

【リスト呈示】

- (1) うれしそうだった
- (2) うれしさと当惑がまじっていた
- (3) どういう気持かわからなかった
- (4) 産んでほしくないようだった
- (5) はっきり中絶をのぞんでいた
- (6) その他（
- (7) 妊娠を知らせなかった

24

Q15 あなたのお父さん・お母さんに妊娠を知らせた時、反応はいかがでしたか。

次のうちいちばんあてはまるものをえらんでください。【リスト呈示】

このらんは  
つかわないこと

父 母

- ( ) ( ) (1) うれしそうだった  
 ( ) ( ) (2) うれしさと当惑がまじっていた  
 ( ) ( ) (3) とにかく結婚するようすすめた  
 ( ) ( ) (4) どういう気持かわからなかった  
 ( ) ( ) (5) しかたがないという感じだった  
 ( ) ( ) (6) 産んでほしくないようだった  
 ( ) ( ) (7) とにかく中絶するようすすめた  
 ( ) ( ) (8) その他 ( ) )  
 ( ) ( ) (9) 妊娠を知らせなかった  
 ( ) ( ) (10) 親はいなかった

25

↓  
□

26

□

Q16 妊娠や出産によって、あなたの学業・仕事に何か影響がありましたか。

- (1) 学校を退学した (4) 仕事を休職した  
 (2) 学校を休学した (5) とくに影響はなかった  
 (3) 仕事をやめた (6) その他 ( ) )

27

□

S016-1 【Q16で(1)、(2)の人(退学・休学した人)に】どんな事情でそうなったのですか。次のうちいちばんあてはまるものをえらんでください。

【リスト呈示】

- (1) 自分の意に反して学校側からそうさせられた  
 (2) 親などのすすめにしたがってそのようにした  
 (3) 周囲の雰囲気からなんとなくそうってしまった  
 (4) 自分からそうするほかないと考えた  
 (5) どちらかという自分で望んでそうした  
 (6) その他 ( ) )

28

□

S016-2 【Q16で(1)、(2)の人(退学・休学した人)に】そのあとは、どうになりましたか。

- (1) もとの学校に復学した (3) 退学してそのままになった  
 (2) 別の学校に転校した (4) その他 ( ) )

29

□

Q17 妊娠や出産をきっかけに住むところが変わりましたか。

この人は  
つかわないこと

- (1) 妊娠して間もなく変わった (4) 出産後しばらくしてから変わった  
 (2) 出産が近づいて変わった (5) 変わらなかった  
 (3) 出産と同時に変わった (6) その他 ( )

30

S017-1【Q17で(1)~(4)の人(変わった人)に】それはなぜですか。

【リスト呈示】

- (1) 子どもと暮らすには狭すぎたから (5) 子持ちは住めないことに  
 (2) 親のそばに行きたかったから になっていたから  
 (3) 近隣関係がわずらわしかったから  
 (4) 仕事の関係で転居が必要だったから (6) その他 ( )

31

Q18 妊娠や出産によって、相手のかた(お子さんの父親)との婚姻関係は変わりましたか。【リスト呈示】

- (1) 結婚(届出)していて、変わらなかった  
 (2) 同棲していて、変わらなかった  
 (3) 結婚(届出)することになった  
 (4) 同棲することになった  
 (5) 別れることになった  
 (6) もともとずっとつきあう関係ではなかった  
 (7) その他 ( )

32

Q19 妊娠中何か悩みがありましたか。悩んだことがあればいくつでもあげてください。【リスト呈示】また、そのなかでいちばん悩んだのはどんなことでしたか。(番号に◎)

- (1) 妊娠中の体調のこと (10) 友達との関係のこと  
 (2) 分娩の不安のこと (11) 学校・学業または職場  
 (3) 産まれてくる子どもの健康のこと ・仕事のこと  
 (4) 子どもの世話や育てかたのこと (12) やりたいことができな  
 (5) 産まれたあとの生活(経済)のこと くなったこと  
 (6) 相手(夫)との関係のこと (13) 自分の将来のこと  
 (7) 自分の親との関係のこと (14) その他  
 (8) 相手(夫)の親との関係のこと ( )  
 (9) 周囲からの視線や噂のこと (15) とくにない

33	(1)	(9)	41
34	(2)	(10)	42
35	(3)	(11)	43
36	(4)	(12)	44
37	(5)	(13)	45
38	(6)	(14)	46
39	(7)	(15)	47
40	(8)		

41

Q20 妊娠中に、悩みごとの相談相手になってくれたのはどなたでしたか。相談相手になってくれた人をすべてあげてください。【リスト呈示】また、そのなかかていちばんよい相談相手だったのはどなたでしたか（番号に◎）

このうちは  
つかわないこと

- |              |                                |
|--------------|--------------------------------|
| (1) 相手（夫）    | (9) 保健婦                        |
| (2) 自分の親     | (10) 学校の担任                     |
| (3) 相手（夫）の親  | (11) 養護教諭                      |
| (4) きょうだい    | (12) 民生・児童委員                   |
| (5) 親戚       | (13) 福祉事務所・児童相談所など役所の人         |
| (6) 友人・知人    | (14) その他（                    ） |
| (7) 職場の上司・仲間 | (15) とくにいなかった                  |
| (8) 産婦人科医    |                                |

19	(1)	(9)	57
50	(2)	(10)	58
51	(3)	(11)	59
52	(4)	(12)	60
53	(5)	(13)	61
54	(6)	(14)	62
55	(7)	(15)	63
56	(8)		

64

Q21 妊娠してから出産するまでのあなたの気持ちの変化は、次の3つのうちのどれに近いですか。【選択肢を読みあげる】

- (1) 親になることの自覚や期待のほうが強くなった  
 (2) 親になることの負担や不安のほうが強くなった  
 (3) とくにどちらともいえない

65

Q22 出産の場所はどのようにして決めましたか。

- (1) 自分で探して決めた                    (4) 相手（夫）の親との相談で決めた  
 (2) 相手（夫）との相談で決めた       (5) 友達に紹介してもらって決めた  
 (3) 自分の親との相談で決めた       (6) その他（                    ）

66

Q23 出産した場所は、あなたのご実家の近くでしたか。

- (1) 実家から通院・見舞いができるところだった  
 (2) 自分の実家からは遠いが、相手の実家からは近かった  
 (3) 自分の実家からも、相手の実家からも遠いところだった  
 (4) その他（                    ）

67

Q24 出産の費用はおもにどなたが用意しましたか。

- (1) 自分で用意した                    (5) 相手（夫）の親が用意した  
 (2) 相手（夫）が用意した           (6) 親戚・知人が用意してくれた  
 (3) 自分と相手（夫）で用意した   (7) 入院助産・出産扶助など公的制度を利用した  
 (4) 自分の親が用意した           (8) その他（                    ）

68

Q25 出産で入院するとき、どなたと一緒にしてもらいましたか。  
【いくつでも】

- (1) 相手(夫) (4) 友達  
 (2) 自分の親・きょうだいなど (5) その他( )  
 (3) 相手(夫)の親・きょうだいなど (6) とくにいなかった

このらんは  
つかわないこと

↓

69	(1)	(4)	72
70	(2)	(5)	73
71	(3)	(6)	74

Q26 出産直後(退院してから)の、あなたやお子さんの世話はおもにどなたがな  
さいましたか。

- (1) 相手 (5) 友達・近隣の人  
 (2) 自分の母親・きょうだい・親戚 (6) 自分一人で  
 (3) 相手の母親・きょうだい・親戚 (7) 施設に入所した  
 (4) ヘルパーなど有料のお手伝い (8) その他( )

75

III. 産まれたお子さんのことや子育てについておたずねします。

※ 複数のお子さんがいらっしゃる方も、今回産まれたお子さんについてのみおた  
えください。

Q27 現在、あなたと相手のかた(お子さんの父親)との婚姻関係は、どのよう  
なっていますか。【リスト呈示】

- (1) 結婚届提出 → 夫と同居 (5) 結婚届提出せず → 相手と同居  
 (2) " → 夫と別居 (6) " → 相手と同居後、離別  
 (3) " → 夫と離婚 (7) " → 相手と同居後、死別  
 (4) " → 夫と死別 (8) " → 相手と同居せず  
 (9) その他( )

76

S027-1【Q27で(5)~(9)の人(結婚届を提出していない人)に】現在、お子さんの  
籍はどのようになっていますか。【リスト呈示】

- (1) 父親は認知している (4) 相手の親の籍にはいった  
 (2) 父親は認知していない (5) その他( )  
 (3) 自分の親の籍にはいった

77

この人は  
つわいのこと

Q28 あなたは、現在、どなたとくらしていらっしゃいますか。

- (1) 子ども
- (2) 子ども+相手(夫)
- (3) 子ども+相手(夫)+自分の親
- (4) 子ども+相手(夫)+相手(夫)の親
- (5) 子ども+自分の親
- (6) 子ども+相手(夫)の親
- (7) その他( )

78

S028-1【Q28で(2)~(4)、(7)の人(お子さんの父親と一緒にくらしている人)に】  
父親はお子さんの世話をなさいますか。

- (1) よく世話をする
- (2) あるていどは世話をする
- (3) ほとんど世話をしない
- (4) まったく世話をしない

79

S028-2【Q28で(1)、(5)~(7)の人(お子さんの父親と別れてくらしている人)に】  
父親はお子さんの様子を知っていますか。【リスト呈示】

- (1) 時々様子を見にくる
- (2) 時々様子を聞いてくる
- (3) 知りたがっても教えていない
- (4) 知ろうとする気がない
- (5) 妊娠・出産を知らない
- (6) その他( )

80

S028-3【Q28で(1)、(5)~(7)の人(お子さんの父親と別れてくらしている人)に】  
父親からのお子さんの養育費はどうなっていますか。【リスト呈示】

- (1) 最初の段階のみ受け取った
- (2) 定期的に受け取っている
- (3) 時々受け取っている
- (4) 約束したのにくれない
- (5) 最初から全くそういう話はない
- (6) 家裁で調停中である
- (7) 当事者で話し合いの最中である
- (8) その他( )

81

S028-4【Q28で(7)の人(お子さんと別れてくらしている人)に】現在、お子さんはどなたとくらしていますか。

- (1) 自分の親(実家)
- (2) 相手
- (3) 福祉施設入所中( )
- (4) その他( )
- (3) 相手+相手の親など

82



Q29 ふだんの日中は、どなたがおもにお子さんの世話をしていますか。

このらんは  
つかわないこと

- (1) 自分
- (2) 相手(夫)
- (3) 自分の母親
- (4) 相手(夫)の母親
- (5) 保育所
- (6) 乳児院・母子寮
- (7) その他( )

83

Q30 産まれた時、お子さんの健康面で心配になるような問題がありましたか。

- (1) とくになかった
- (2) あった( )

84

Q31 お子さんが満1歳までのあいだで、最初の乳児健診を受診したのはいつですか。

- (1) 3ヵ月未満(1ヵ月検診)
- (2) 4~6ヵ月(4ヵ月検診)
- (3) 7~9ヵ月(7ヵ月検診)
- (4) 10~12ヵ月(10ヵ月検診)
- (5) まだ受診していない(現在 月)
- (6) まだ受診していない(現在満1歳以上)
- (7) その他( )

85

Q32 子育てについて、何か悩みがありますか。悩んでいることがあればいくつでもあげてください。【リスト呈示】また、そのなかでいちばん悩んでいるのはどんなことですか(番号に◎)。

- (1) 子どもの発育が順調でないこと
- (2) 子どもの世話のしかたでわからないことや心配なことが多いこと
- (3) 子どもの睡眠・哺乳などがうまくいかずいららすること
- (4) 子どもの育て方で親と意見があわないこと
- (5) 子育てで疲れて体がきついこと
- (6) 毎日子どもの世話ばかりで面白くないこと
- (7) 子どもとだけの生活で孤独なこと
- (8) 相手(夫)が子どものことに責任を感じてくれないこと
- (9) 子どもがいて外出や友だちつきあいができないこと
- (10) 子どもがいて学校に行けないこと
- (11) 子どもがいて働けないこと
- (12) 子どもができて経済的に苦しいこと
- (13) 子どものことで住宅に苦労していること
- (14) 子どもをかかえて生活がどうなるか不安なこと
- (15) その他( )
- (16) とくにない

86	(1)	(9)	94
87	(2)	(10)	95
88	(3)	(11)	96
89	(4)	(12)	97
90	(5)	(13)	98
91	(6)	(14)	99
92	(7)	(15)	100
93	(8)	(16)	101

102

Q33 子育ての相談相手になってくれるのはどなたですか。相談相手になってくれる人すべてをあげてください。【リスト呈示】また、そのなかでいちばんよい相談相手はどなたですか（番号に◎）。

- (1) 相手（夫）
- (2) 自分の親・きょうだい
- (3) 相手（夫）の親・きょうだい
- (4) 親戚（ ）
- (5) 友人・知人
- (6) 学校（時代）の担任
- (7) 学校（時代）の養護教諭
- (8) 職場（時代）の上司・仲間
- (9) 産婦人科医
- (10) 保健婦
- (11) 保育所の保母
- (12) 民生・児童委員
- (13) 役所関係の人
- (14) その他（ ）
- (15) とくにいない

このらんは  
つかわないこと

103	(1)	(9)	111
104	(2)	(10)	112
105	(3)	(11)	113
106	(4)	(12)	114
107	(5)	(13)	115
108	(6)	(14)	116
109	(7)	(15)	117
110	(8)		
118			

Q34 子育てについて、産まれる前に想像していたことといまの状況をくらべて感じることは、次の3つのうちどれに近いですか。【選択肢を読みあげる】

- (1) 想像していたよりも楽しい
- (2) 想像していたよりもつらい
- (3) だいたい想像していたとおり

119

Q35 今回の妊娠・出産をふりかえてみて、つらかったと思うことがありますか。あればいくつでもあげてください。【リスト呈示】また、そのなかでいちばんつらかったのはどんなことでしたか（番号に◎）

- (1) 出産や育児にいつまでも自信がもてなかったこと
- (2) 産みたくないのに産まなければならなかったこと
- (3) 友達や周囲から特別な眼でみられたこと
- (4) 親やきょうだいから非難・反対されたこと
- (5) 親やきょうだいと別れてくらすことになったこと
- (6) 学校をやめなければならなかったこと
- (7) 仕事をやめなければならなかったこと
- (8) 相手（夫）が自分を理解してくれなかったこと
- (9) 相手（夫）との関係がぎくしゃくしていたこと
- (10) 相手（夫）と別れることになったこと
- (11) 生活の見通しが立たなくなって心細いこと
- (12) 適当な相談相手がいなかったこと
- (13) その他（ ）
- (14) とくにない

120	(1)	(8)	127
121	(2)	(9)	128
122	(3)	(10)	129
123	(4)	(11)	130
124	(5)	(12)	131
125	(6)	(13)	132
126	(7)	(14)	133

134





IV. 最後に、あなたご自身のこれまでのことや、現在の生活のことなどについて、おたずねします。

Q41 最初の性体験（性交）は、あなたが何歳の時でしたか。

- (1) 小学生の時      (3) 16歳      (5) 18歳以上  
 (2) 中学生の時      (4) 17歳      (6) おぼえていない

このらんは  
つかわないこと

178

Q42 具体的な避妊のしかたを、誰から最初に教わりましたか。

- (1) 小学校の先生から      (4) 親から      (7) その他  
 (2) 中学校の先生から      (5) 友人・知人から      ( )  
 (3) 高校の先生から      (6) 雑誌・本などで      (8) おぼえていない

179

Q43 妊娠する前、自分の子どもについてどのように考えていましたか。次のうちあなたの気持ちにいちばん近いものをえらんでください。【リスト呈示】

- (1) すぐにも自分の子どもが欲しいと思っていた  
 (2) 適当な時期になったら自分の子どもが欲しいと思っていた  
 (3) いつかは子どもをもつようになるだろうとぼくぜんと考えていた  
 (4) 自分の子どもをもつことなどほとんど考えたことがなかった  
 (5) むしろはっきり自分の子どもは欲しくないと思っていた  
 (6) その他 ( )

180

Q44 今回の妊娠は何回目ですか。人工中絶や自然流産も含めておこたえください。

- (1) はじめて      (3) 3回目      (5) 5回目以上  
 (2) 2回目      (4) 4回目

181

SQ44-1【Q44で(2)~(5)の人（今回の妊娠がはじめてでない人）に】これまでに、人工中絶をしたことがありますか。

- (1) ない      (2) 1回ある      (3) 2回以上ある

182

Q45 あなたが最後にかよった学校を教えてください。

- |            |       |      |      |      |
|------------|-------|------|------|------|
| (1) 中学校    | ..... | ① 卒業 | ② 中退 | ③ 在学 |
| (2) 中卒各種学校 | ....  | ④ 卒業 | ⑤ 中退 | ⑥ 在学 |
| (3) 高等学校   | ..... | ⑦ 卒業 | ⑧ 中退 | ⑨ 在学 |
| (4) 高卒専門学校 | ....  | ⑩ 卒業 | ⑪ 中退 | ⑫ 在学 |
| (5) 短大     | ..... | ⑬ 卒業 | ⑭ 中退 | ⑮ 在学 |
| (6) 大学     | ..... | ⑯ 卒業 | ⑰ 中退 | ⑱ 在学 |
| (7) その他    | (     |      | )    |      |

この人は  
つかわないこと

↓  
183

Q46 中学生・高校生の頃、あなたとお父さん・お母さんとの関係は、次の5段階のうちどれに近かったと思いますか。【選択肢を読みあげる】

- (1) とてもいい関係だった
- (2) まあまあ関係だった
- (3) どちらともいえない
- (4) あまりいい関係ではなかった
- (5) まったくいい関係ではなかった
- (6) その他 ( )

184

Q47 中学生・高校生の頃、あなたのご家庭のくらしむき（経済状態）は、次の5段階のうちどれに近かったと思いますか。【選択肢を読みあげる】

- (1) かなり楽だった
- (2) 楽なほうだった
- (3) どちらともいえない
- (4) 苦しいほうだった
- (5) かなり苦しかった
- (6) その他 ( )

185

Q48 中学生・高校生の頃、あなたにとっての学校生活は、次の5段階のうちどれに近かったと思いますか。【選択肢を読みあげる】

- (1) とても楽しかった
- (2) まあまあ楽しかった
- (3) どちらともいえない
- (4) あまり楽しくなかった
- (5) まったく楽しくなかった
- (6) その他 ( )

186

Q49 現在、あなたの親や相手（夫）の親に生活上の援助をしてもらっていることがありますか。あればいくつでもあげてください。【リスト呈示】

あなたの親 相手(夫)の親

- |     |     |                        |
|-----|-----|------------------------|
| ( ) | ( ) | (1) 住居のことで世話になっている     |
| ( ) | ( ) | (2) 生活費のことで世話になっている    |
| ( ) | ( ) | (3) お小遣いや品物をときどきもらう    |
| ( ) | ( ) | (4) 家事を手伝ってもらう         |
| ( ) | ( ) | (5) 子どもの世話をしてもらう       |
| ( ) | ( ) | (6) 家事や育児の相談にのってもらっている |
| ( ) | ( ) | (7) 悩みや将来の問題を相談する      |
| ( ) | ( ) | (8) その他 ( )            |
| ( ) | ( ) | (9) とくにない              |
| ( ) | ( ) | (10) 親はいない             |

このらんは  
つかわないこと

187	(1)	(1)	197
188	(2)	(2)	198
189	(3)	(3)	199
190	(4)	(4)	200
191	(5)	(5)	201
192	(6)	(6)	202
193	(7)	(7)	203
194	(8)	(8)	204
195	(9)	(9)	205
196	(10)	(10)	206

Q50 あなたは、現在、お仕事をしていますか。

- |              |             |              |
|--------------|-------------|--------------|
| (1) フルタイムの勤務 | (3) 家業の手伝い  | (5) 仕事はしていない |
| (2) パートなどの勤務 | (4) その他 ( ) |              |

207

Q51 あなたの現在の生活費（養育費を含む）は、おもにどこから出ていますか。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| (1) 自分の収入       | (5) 夫（相手）の親の収入 |
| (2) 夫（相手）の収入    | (6) 別れた相手からの送金 |
| (3) 自分と夫（相手）の収入 | (7) 生活保護       |
| (4) 自分の親の収入     | (8) その他 ( )    |

208

Q52 あなたの現在のくらしむき（経済状態）は、次の5段階のうちのどれに近い  
ですか。

【選択肢を読みあげる】

- |               |
|---------------|
| (1) かなり楽である   |
| (2) 楽なほうである   |
| (3) どちらともいえない |
| (4) 苦しいほうである  |
| (5) かなり苦しい    |

209





希必

地域		サンプルNo.		
	1		2	3

## はじめての出産と育児に関する調査

松本保健所・厚生省リプロダクティブヘルス研究班  
共同研究

この調査は、はじめて出産と育児を経験なさったかたに、妊娠・出産の前後の状況や子育てのご苦労についておうかがいして、今後の母子保健や福祉のありかたを考えていくうえでの参考にさせていただくためのものです。お忙しいところお時間をさいいただき、まことに申し訳ありませんが、あなたの妊娠・出産・子育てや生活のことについていろいろおたずねいたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

少し立ち入ったこともお聞きしますが、お答えになった内容が他のかたに知られる心配はありません。また、調査の結果は統計的に処理されますので、個人のお名前が出ることは決してありません。どうぞ安心して、できるだけありのままにお答えくださるようお願いいたします。

### 記入にあたってのお願い

- ご記入は、黒または青のボールペンか鉛筆でお願いいたします。
- 回答は、原則として、あてはまるものの番号に○をつけてください。◎をつける指示がある場合は、それにしたがってください。
- の数は、原則として一つだけですが、いくつでもなどの指示がある場合は、それにしたがってください。
- 「その他( )」に○をつけた場合には、( )内に具体的な内容をお書きください。
- 質問の右はしにある□らは、集計用ですので、使用しないでください。

1. 今回の3歳児健康診査に連れていらしたお子さん(いちばん上のお子さん)の妊娠と出産の経過についておうかがいします。

※下にお子さんがいるかたや現在妊娠中のかたも、ここでは、すべて、いちばん上のお子さんの妊娠・出産についておこたえください。

このらんは  
つかわないでください

Q1 このお子さんを出産した時、あなたは何歳でしたか。

- (1)25歳      (2)26歳      (3)27歳      (4)28歳      (5)29歳

↓

5

Q2 妊娠に気づいたのは妊娠何ヶ月頃ですか。

- (1)妊娠2ヶ月      (3)妊娠4～5ヶ月      (5)妊娠8ヶ月以降  
(2)妊娠3ヶ月      (4)妊娠6～7ヶ月      (6)おぼえていない

7

Q3 それでは、妊娠後、最初に受診したのはいつですか。

- (1)妊娠2ヶ月      (3)妊娠4～5ヶ月      (5)妊娠8ヶ月以降  
(2)妊娠3ヶ月      (4)妊娠6～7ヶ月      (6)おぼえていない

8

Q 4 すると、最初に受診した時は、妊娠に気づいてからどのくらいだったことになりますか。

- (1)気づいてすぐ (3)2ヵ月くらい (5)おぼえていない  
(2)1ヵ月くらい (4)3ヵ月以上

9

Q 5 母子健康手帳をいつもらいましたか。

- (1)妊娠5ヵ月以前 (3)分娩時または分娩後 (5)おぼえていない  
(2)妊娠6～9ヵ月 (4)もらわなかった

10

Q 6 妊娠してから、定期的に診察を受けていましたか。

- (1)医師の指示どおり定期的に受けていた (3)数回しか受けなかった  
(2)自分で判断し適当な間隔で受けていた (4)ほとんど受けなかった

11

SQ 6-1【Q 6で(2)～(4)の人(定期的に受けなかった人)に】それはなぜですか。

- (1)なんとなくめんどろだった (3)医者に行くのがいやだった (5)その他( )  
(2)どこに行けばいいかわからなかった (4)費用のことが心配だった

12

Q 7 妊娠中に母親学級を受講しましたか。

- (1)数回からなるコースを修了した (3)1回だけの学級を受講した (5)その他( )  
(2)コースの一部分だけを受講した (4)受講しなかった

13

SQ 7-1【Q 7で(1)～(3)の人(受講した人)に】どこで受講しましたか。いくつでも○をつけてください。

- (1)保健所・市町村など (2)病院・医院など (3)その他( )

14

15

16

Q 8 妊娠中に、心配になるような身体の問題や異常がありましたか。

- (1)とくになかった (2)あった(具体的に )

17

Q 9 分娩前後に、心配になるような身体の問題や異常がありましたか。

- (1)とくになかった (2)あった(具体的に )

18

II. 妊娠・出産をめぐるあなたの周囲の状況やあなたのお気持ちをうかがいます。

Q 10 妊娠がわかった時、あなたと相手(お子さんのお父さん)とはどういう関係でしたか。

- (1)結婚(届出)していた (3)婚約していた  
(2)同棲していた (4)その他( )

19

Q 11 妊娠した時、あなたはお仕事(就労)をしていらっしゃいましたか。

- (1)就労していた(自営・パート等を含む) (2)就労していなかった

20

Q12 妊娠がわかった時のあなたの気持はいかがでしたか。次のうちからあなたの気持にいちばん近いものをえらんでください。

- (1)うれしかった (3)あまりピンとこなかった (5)とてもショックだった  
 (2)うれしさと当惑が半々だった (4)やむをえないという気持だった (6)その他 ( )

21

Q13 妊娠がわかった時、あなたは中絶について考えましたか。

- (1)全く考えなかった (3)中絶すべきかどうか迷った (5)その他 ( )  
 (2)ちらと頭をかすめた (4)中絶したいと真剣に考えた

22

SQ13-1 【Q13で(2)~(5)の人(少しでも中絶を考えた人)に】産むことになったのはどんな事情からですか。次のうちいちばんあてはまるものをえらんでください。

- (1)中絶のことはすぐ頭から消えた (6)迷っているうち産むことになった  
 (2)徐々に産もうという気持ちに変わった (7)相手から産むよう強くすすめられた  
 (3)中絶するのがこわかった (8)周囲から産むよう強くすすめられた  
 (4)中絶の費用が出せなかった (9)その他 ( )  
 (5)中絶するには遅すぎた

23

Q14 相手(お子さんのお父さん)に妊娠を知らせた時、反応はいかがでしたか。次のうちいちばんあてはまるものをえらんでください。

- (1)うれしそうだった (4)産んでほしくないようだった  
 (2)うれしさと当惑がまじっていた (5)はっきり中絶をのぞんでいた  
 (3)どういう気持かわからなかった (6)その他 ( )

24

Q15 妊娠中、何か悩みがありましたか。悩んだことがあればいくつでも○をつけてください。また、そのなかでいちばん悩んだことには◎をつけてください。

- (1)妊娠中の体調のこと (8)相手(夫)の親との関係のこと  
 (2)分娩の不安のこと (9)周囲からの視線や噂のこと  
 (3)産まれてくる子どもの健康のこと (10)やりたいことができなくなったこと  
 (4)子どもの世話や育てかたのこと (11)自分の将来のこと  
 (5)産まれたあとの生活(経済)のこと (12)その他 ( )  
 (6)相手(夫)との関係のこと (13)とくにない  
 (7)自分の親との関係のこと

25	(1)	(8)	32
26	(2)	(9)	33
27	(3)	(10)	34
28	(4)	(11)	35
29	(5)	(12)	36
30	(6)	(13)	37
31	(7)		

38

Q16 妊娠中に、悩みごとの相談相手になってくれたのはどなたでしたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。また、そのなかでいちばんよい相談相手だった一は◎をつけてください。

- (1)相手(夫) (5)親戚 (9)保健婦 (13)とくになかった  
 (2)自分の親 (6)友人・知人 (10)民生・児童委員  
 (3)相手(夫)の親 (7)職場の上司・仲間 (11)福祉事務所・児童相談所などの人  
 (4)きょうだい (8)産婦人科医 (12)その他 ( )

39	(1)	(8)	46
40	(2)	(9)	47
41	(3)	(10)	48
42	(4)	(11)	49
43	(5)	(12)	50
44	(6)	(13)	51
45	(7)		

52

Q17 妊娠してから出産するまでのあなたの気持の変化は、次のうちのどれにいちばん近いですか。

- (1)親になることの自覚や期待のほうが強くなった  
 (2)親になることの負担や不安のほうが強くなった  
 (3)とくにどちらともいえない

53

Q18 出産の場所はおもにどのようにして決めましたか。

- (1)自分で探して決めた (4)相手(夫)の親との相談で決めた  
(2)相手(夫)との相談で決めた (5)友達に紹介してもらって決めた  
(3)自分の親との相談で決めた (6)その他( )

54

Q19 出産した場所は、あなたのご実家の近くでしたか。

- (1)実家から通院・見舞いができるところだった  
(2)自分の実家からは遠いが、相手の実家からは近かった  
(3)自分の実家からも、相手の実家からも遠いところだった  
(4)その他( )

55

Q20 出産の費用はおもにどなたが用意しましたか。

- (1)自分たちで用意した (3)相手(夫)の親が用意した (5)その他( )  
(2)自分の親が用意した (4)入院助産・出産扶助など公的制度を利用した

56

Q21 出産で入院するとき、どなたと一緒にしてもらいましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- (1)相手(夫) (3)相手(夫)の親・きょうだいなど (5)その他( )  
(2)自分の親・きょうだいなど (4)友達 (6)とくにいなかった

57	(1)	(3)	60
58	(2)	(5)	61
59	(4)	(6)	62

Q22 出産直後(退院してから)の、あなたやお子さんの世話はおもにどなたがなさいましたか。

- (1)相手(夫) (4)ヘルパーなど有料のお手伝い (7)その他( )  
(2)自分の母親・きょうだいなど (5)友達・近隣の人  
(3)相手(夫)の母親・きょうだいなど (6)自分一人で

63

Ⅲ. (いちばん上の) お子さんのことや子育てについておたずねします。

※下にお子さんがいらっしゃる方も、いちばん上のお子さんについておこたえください。

Q23 下にお子さんがいらっしゃいますか。

- (1)いない (3)下に1人いる (5)その他( )  
(2)いないが、現在妊娠中 (4)下に2人いる

64

Q24 現在、あなたの配偶関係(結婚関係)はどのようになっていますか。

- (1)夫と同居している (2)離別した (3)死別した (4)その他( )

65

Q25 現在、あなたといっしょにくらしているご家族は、次のどれにあたりますか。

- (1)子ども (5)子ども+自分の親  
(2)子ども+相手(夫) (6)子ども+相手(夫)の親  
(3)子ども+相手(夫)+自分の親 (7)その他( )  
(4)子ども+相手(夫)+相手(夫)の親

66

S025-1【Q25で(2)~(4)、(7)の人(相手と一緒にくらしている人)に】父親はお子さんの世話をなさいますか。  
いちばんあてはまるものをえらんでください。

- (1)よく世話をする (3)ほとんど世話をしない  
(2)あるていどは世話をする (4)まったく世話をしない

87

Q26 ふだんの日中は、どなたがおもにお子さんの世話をしていますか。

- (1)自分 (3)自分の母親 (5)保育所  
(2)相手(夫) (4)相手(夫)の母親 (6)その他( )

88

Q27 産まれたとき、お子さんの健康面で心配になるような問題がありましたか。

- (1)とくになかった (2)あった(具体的に )

89

Q28 お子さんが満1歳までのあいだで、最初の乳児健診を受診したのはいつですか。(母子手帳をお持ちのかたは、それをごらんください。)

- (1)3ヵ月未満(1ヵ月健診) (4)10~12ヶ月(10ヶ月健診) (7)その他( )  
(2)4~6ヵ月(4ヵ月健診) (5)1歳をすぎてから (8)わからない  
(3)7~9ヵ月(7ヵ月健診) (6)いままで受診していない

90

Q29 子育てについて、何か悩みがありますか。悩んでいることがあればいくつでも○をつけてください。また、そのなかでいちばん悩んでいることには◎をつけてください。

- (1)子どもの発育が順調でないこと  
(2)子どもの世話のしかたでわからないことや心配なことが多いこと  
(3)子どもの睡眠・哺乳などがうまくいかずいらいらすること  
(4)子どもの育て方で親と意見があわないこと  
(5)子育てで疲れて体がきついこと  
(6)毎日子どもの世話ばかりで面白くないこと  
(7)子どもとだけの生活で孤独なこと  
(8)相手(夫)が子どものことに責任を感じてくれないこと  
(9)子どもがいて外出や友だちづきあいができないこと  
(10)子どもがいて働けないこと  
(11)子どもができて経済的に苦しいこと  
(12)子どものことで住宅に苦勞していること  
(13)子どもをかかえて生活がどうなるか不安なこと  
(14)その他( )  
(15)とくにない

71	(1)	(2)	70
72	(2)	(10)	80
73	(3)	(11)	81
74	(4)	(12)	82
75	(5)	(13)	83
76	(6)	(14)	84
77	(7)	(15)	85
78	(8)		

86

Q30 子育ての相談相手になってくれるのはどなたですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。また、そのなかでいちばんよい相談相手には◎をつけてください。

- (1)相手(夫) (6)職場(時代)の上司・仲間 (11)役所関係の人  
(2)自分の親・きょうだい (7)産婦人科医 (12)その他( )  
(3)相手(夫)の親・きょうだい (8)保健婦 (13)とくにいない  
(4)親戚(具体的に ) (9)保育所の保母  
(5)友人・知人 (10)民生・児童委員

87	(1)	(6)	81
88	(2)	(7)	95
89	(3)	(10)	96
90	(4)	(11)	97
91	(5)	(12)	98
92	(6)	(13)	99
93	(7)		

100

Q31 子育てについて、産まれる前に想像していたことといまの状況をくらべて感じることは、次のうちどれにいちばん近いですか。

- (1)想像していたよりも楽しい (2)想像していたよりもつらい (3)だいたい想像していたとおり

101

--

Q32 いちばん上のお子さんの妊娠・出産をふりかえて、つらかったと思うことがありますか。あればいくつでも○をつけてください。またそのなかでいちばんつらかったことには◎をつけてください。

- (1)体調が悪くて産むことに自信がもてなかったこと (5)生活の見通しが立たなくなって心細いこと  
 (2)産みたくないのに産まなければならなかったこと (6)適当な相談相手がいなかったこと  
 (3)仕事をやめなければならなかったこと (7)その他 ( )  
 (4)相手(夫)が自分を理解してくれなかったこと (8)とくにない

102	(1)	(5)	108
103	(2)	(6)	107
104	(3)	(7)	108
105	(4)	(8)	108

110

--

Q33 いちばん上のお子さんの妊娠・出産をふりかえてみて、よかったと思うことがありますか。あればいくつでも○をつけてください。また、そのなかでいちばんよかったと思うことには◎をつけてください。

- (1)気持ちおちついて生活に自信が出てきたこと  
 (2)毎日が充実していて生きがいを感じることに  
 (3)親としてきちんとしなければという責任感が湧いてきたこと  
 (4)子どもが可愛くて成長が楽しみなこと  
 (5)世間から一人前の人間として認められたような気がすることに  
 (6)人間関係がうまく結べるようになったことに  
 (7)親になって少しはつらいことも我慢できるようになったことに  
 (8)親や周囲の人への感謝の気持ちがわいてきたことに  
 (9)相手(夫)が人間的に成長したことに  
 (10)相手(夫)との関係がよくなったことに  
 (11)自分の親や相手(夫)の親との関係がよくなったことに  
 (12)新しい友だち関係が生じたことに  
 (13)その他 ( )  
 (14)とくにない

111	(1)	(8)	118
112	(2)	(9)	110
113	(3)	(10)	120
114	(4)	(11)	121
115	(5)	(12)	122
116	(6)	(13)	123
117	(7)	(14)	124

125

--

Q34 最初のお子さんを出産した時期について、どのように思っていますか。あなたの気持ちにいちばん近いものをえらんでください。

- (1)早すぎたと思う (4)もう少し早くてもよかったと思う  
 (2)もう少し遅くてもよかったと思う (5)遅すぎたと思う  
 (3)ちょうどよかったと思う

126

--

Q35 これから、あと何人くらい子どもを産みたいと思いますか。

- (1)もうほしくない (2)あと1人 (3)あと2人 (4)あと3人以上 (5)わからない

127

--

Q36 お子さんのことで、福祉・保健その他の公的な機関や制度を利用したことがありますか。あればいくつでもあげてください。

- (1)役所(福祉事務所)に相談した (6)家事援助(ヘルパー)制度を利用した (11)保育所に入所した  
 (2)児童相談所に相談した (7)児童手当を受けた (12)その他 ( )  
 (3)家庭裁判所に相談した (8)児童扶養手当を受けた (13)とくにない  
 (4)保健婦等の訪問指導を受けた (9)生活保護を受けた  
 (5)養育医療(育成医療)を利用した (10)入院助産制度などを利用した

128	(1)	(6)	135
129	(2)	(7)	136
130	(3)	(10)	137
131	(4)	(11)	138
132	(5)	(12)	139
133	(8)	(13)	140
134	(7)		

Q37 子育てをしていて、社会的に解決してほしいと切実に感じていることがありますか。あればいくつでも○をつけてください。また、そのなかでいちばん切実に感じていることには◎をつけてください。

- (1)子育てしているあいだは育児手当など経済的な援助がほしい
- (2)子どもがいても住めるような住宅を提供してほしい
- (3)子育てのあいだ仕事が休める育児休業制度がほしい
- (4)働きながら子育てできるように保育を充実してほしい
- (5)気軽に子育ての相談にのってもらえるところがほしい
- (6)子育てしながらでも母親も息抜きができるような場がほしい
- (7)子どもがのびのびと遊べるような場所をつくってほしい
- (8)子どもの友達をつくれるような機会がほしい
- (9)親どうしが仲良くなれるような機会がほしい
- (10)子育てや家庭のことを周囲からとやかく言わないようにしてほしい
- (11)その他 ( )
- (12)とくにない

141	(1)	(7)	147
142	(2)	(8)	148
143	(3)	(9)	149
144	(4)	(10)	150
145	(5)	(11)	151
146	(6)	(12)	152

153

IV. 最後に、あなたご自身のこれまでのことや、現在の生活のことなどについて、おたずねします。

Q38 最初の性体験（性交）は、あなたが何歳の時でしたか。

- (1)16歳未満
- (2)16～19歳未満
- (3)19～25歳未満
- (4)25歳以上

154

Q39 具体的な避妊のしかたを、だれから最初に教わりましたか。

- (1)小学校の先生から
- (2)中学校の先生から
- (3)高校の先生から
- (4)親から
- (5)友人・知人から
- (6)雑誌・本などで
- (7)相手（夫）から
- (8)その他 ( )
- (9)おぼえていない

155

Q40 いちばん上のお子さんを妊娠する前、自分の子どもについてどのように考えていましたか。次のうちあなたの気持ちにいちばん近いものをえらんでください。

- (1)すぐにでも自分の子どもが欲しいと思っていた
- (2)適当な時期になったら自分の子どもが欲しいと思っていた
- (3)いつかは子どもをもつようになるだろうとばくぜんと考えていた
- (4)自分の子どもをもつことなどほとんど考えたことがなかった
- (5)むしろはっきり自分の子どもは欲しくないと思っていた
- (6)その他 ( )

156

Q41 いちばん上のお子さんを出産する前に、妊娠したことがありますか。人工中絶や自然流産も含めておこたえください。

- (1)ない
- (2)1回ある
- (3)2回ある
- (4)3回ある
- (5)4回以上ある

157

S041-1 【Q41で(2)～(5)の人（はじめての妊娠ではなかった人）に】これまでに、人工中絶をしたことがありますか。

- (1)ない
- (2)1回ある
- (3)2回以上ある

158

Q42 あなたが最後にかよった学校を教えてください。

- |              |              |           |                          |
|--------------|--------------|-----------|--------------------------|
| (1)中学校・卒業    | (5)高等学校・卒業   | (9)短大・卒業  | (13)その他( )               |
| (2)中学校・中退    | (6)高等学校・中退   | (10)短大・中退 |                          |
| (3)中卒各種学校・卒業 | (7)高卒専門学校・卒業 | (11)大学・卒業 | 159 <input type="text"/> |
| (4)中卒各種学校・中退 | (8)高卒専門学校・中退 | (12)大学・中退 |                          |

Q43 現在、あなたの親や相手(夫)の親に生活上の援助をしてもらっていることがありますか。あれば、( )のなかにいくつでも○をつけてください。

あなたの親 相手(夫)の親

- |     |     |                       |                          |
|-----|-----|-----------------------|--------------------------|
| ( ) | ( ) | (1)住居のことで世話になっている     |                          |
| ( ) | ( ) | (2)生活費のことで世話になっている    | 160 <input type="text"/> |
| ( ) | ( ) | (3)お小遣いや品物をときどきもらう    |                          |
| ( ) | ( ) | (4)家事を手伝ってもらう         |                          |
| ( ) | ( ) | (5)子どもの世話をしてもらう       |                          |
| ( ) | ( ) | (6)家事や育児の相談にのってもらっている |                          |
| ( ) | ( ) | (7)悩みや将来の問題を相談する      | 161 <input type="text"/> |
| ( ) | ( ) | (8)その他( )             |                          |
| ( ) | ( ) | (9)とくにない              |                          |
| ( ) | ( ) | (10)親はいない             |                          |

Q44 あなたは、現在、お仕事をし*て*いらっ*し*ゃいますか。おもなものをえらんでください。

- (1)フルタイムの勤務 (2)パートなどの勤務 (3)家業の手伝い (4)その他( ) (5)していない 162

Q45 あなたの現在のくらしむき(経済状態)は、次のうちのどれにいちばん近いですか。

- (1)かなり楽である (2)楽なほうである (3)どちらともいえない (4)苦しいほうである (5)かなり苦しい 163

Q46 現在のお住まいは、どのようなものですか。

- |                   |              |                          |
|-------------------|--------------|--------------------------|
| (1)自分・相手(夫)名義の持ち家 | (4)公営賃貸      | (7)その他( )                |
| (2)自分の親の持ち家       | (5)民間賃貸      |                          |
| (3)相手(夫)の親の持ち家    | (6)社宅・官舎・社員寮 | 164 <input type="text"/> |

これで質問は終わりです。長時間をさいていただき、どうもありがとうございました。最後に、生活のことやお子さんのこと、または妊娠・出産・育児を体験して感じたことや困っていることなど、何かありましたらお書きください。

165



## [VIII] 養子縁組・乳児院と産院の提携・優生保護相談所・その他

### 1) 養子縁組に関して

#### ① なぜ養護施設へ、なぜ国外が多いか

多くの若年妊娠にかかわり、養子縁組を一つの選択肢と考える人々の願いは、子供たちを生まれた直後から養父母に手渡したいということである。

全国の児童相談所を対象に行ったある調査によると、新生児の養子縁組斡旋希望相談を受けたのは、解答した施設110ヶ所のうち97ヶ所、実際に新生児から里親依託に取り組んでいたのは14ヶ所だった。(備考1, 2)

その調査によるとある児童相談所の取り決めでは、子供をほしがらる夫婦に、

③養子縁組みが決まるまでに約1年はかかる、その間は里子委託であり、実の親から引き取りの要求が来た場合は返さなくてはならない。

④わが子を出産した時と同じに考え、障害の有無で引き取りを左右するようでは希望は受けつけない。

⑤養親候補とする夫婦の年齢は原則として40才未満。子供の性別を気にしたり実親がどのような人であったかを気にするようではだめ。

⑥育児トレーニングと称して産院に来てもらい授乳・おしめ交換を学び、大丈夫とみて里子委託から養子縁組に進む、という方針で接している。

これらにより、やはり親子の絆が出来やすいという。しかし養子に出したいと望まれた子のほとんどが乳児院に預けられている。

また、新生児の里子委託はしないという児童相談所が33ヶ所あり、その理由は「障害の有無の判断するまで慎重に発達状態を観察する」「実親が自ら育てたいと変化する可能性がある」であった。

子供たちのために、早くから、施設でなく家で育てることが望ましく、里親制度を生かしてほしい、そのためにも妊娠中からの児童相談所の取組がもっと広がって欲しいと、述べている。

平成4年度の当研究班でも、河野・長池産婦人科医及び大坂乳児院院長より指摘があったが、上述のような注文をつけず子供を受け入れてくれるという点で、国外への養子縁組の成り立つ率が高いという。

#### ② 養子縁組の問題点

望まない妊娠・出産をした時、もちろん出来るだけ実母による子育てを願うが、それが無理な場合、次に示すような、時間と人手、それに伴う人件費・交通費・事務謝礼、諸雑費、計り知ることのできぬ気苦労と出費が伴う。

①いつ養親に連絡するか(早くから話しても実母が育てたくなるかもしれない)

②本人・双方の両親・養親との話し合いには、一度に人手がかかる(混乱の場であるから)。

③ネットワークが必要(両親にソーシャルワーカー、医師、心理療法士)

④養子縁組承諾書(本人) この記入には立ち会い人として弁護士が必要。

⑤出生証明書(医師)

### 長池産婦人科の例

#### 望まない妊娠をした時

##### 1) カウンセリング

本人

両親

求人

カウンセラー

早くから面接することの適否は?  
本人も家族も混乱の最中である。

##### 2) 時間と人手がいる

診療の合間に、成し遂げるには、あまりにも問題が多すぎる。

ネットワークとして、次の3者が必要。

医師

カウンセラー

ソーシャル・ワーカー

(妊婦および両親に必要な)

##### 3) 児童相談所の問題

本来なら年令からいって、児童相談所に依頼する事項であるが、相談所では下記のトラブルが多いことから、早期の縁組を望まぬことがある。乳児院での一定期間を経ての縁組が多い。

①本人の養子縁組に関する承諾が何時ひっくり変えるか分からない。

②本人の養子縁組に関する承諾は納得済のはずが、後で「書かされた」と言い出すことがある。

③実親が養親のところへ子供を引き取りに来ることがある。

ことがある。

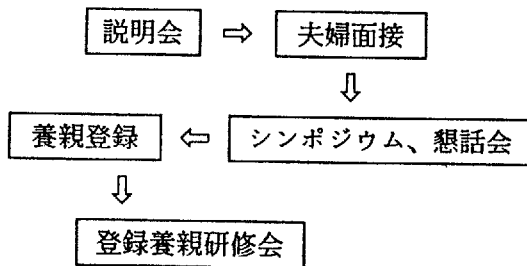
したがって、養親のためでなく子供のために早期縁組を希望する当事者としては、児童相談所抜きで相談することが多い。

#### 4) 必要な書類

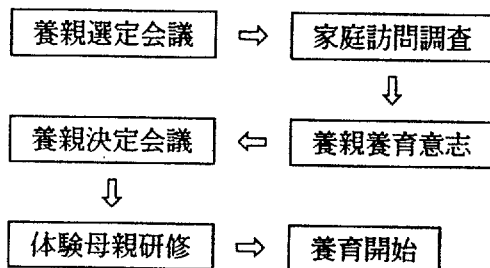
- ①出生証明書
- ②本人・家族・医師の承諾書
- ③14才、15才でも、戸籍に載せる
- ④1つの戸籍を作り子供が入る
- ⑤求人も家庭裁判所に申し出る
- ⑥実母が家庭裁判所に呼ばれ意志の確認をする

### 環の会 Motherly Network 第2種社会福祉事業（東京都）

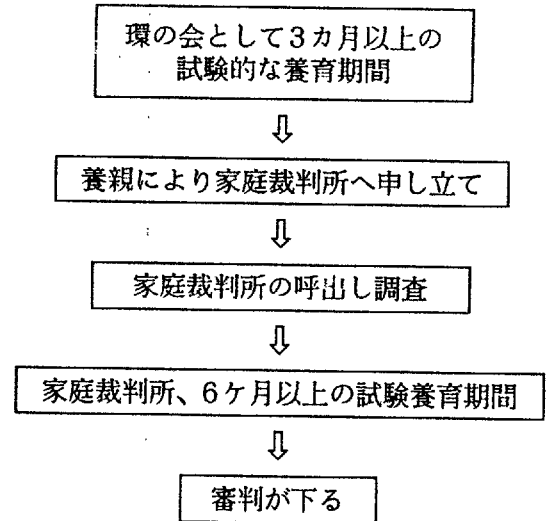
#### 1) 養親登録をするには



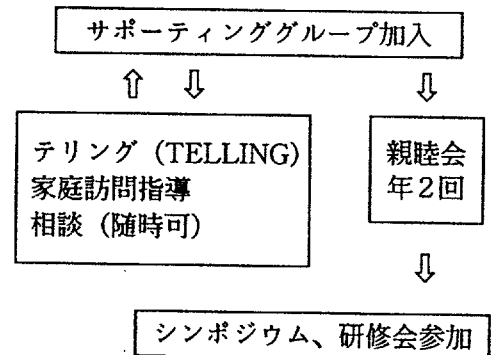
#### 2) 養育をお願いするには



#### 3) 特別養子縁組をするには



#### 4) 養子縁組後のフォローアップ



#### ② 優生保護相談所の活動

長池産婦人科では、優生保護相談所を用い長年若年妊娠の予防・支援に関わってきたが、更に分室を設け、思春期問題に用いている。

目的：正しい性の知識を得るため望まない妊娠を避けるため若年妊婦の母性確立のため（既婚未婚）――ミニ母親教室

対象：青少年及びその保護者  
養護教諭・性教育関係者

内容：備品――青少年のための性教育にする図書・ビデオ

研修会・懇話会、開催  
カウンセリング

[備考]

- 1) 矢満田 篤二：  
要保護児童対策の根幹を問う、  
非行問題研究 No.3、14p、1993、  
東海非行問題研究会
- 2) 矢満田 篤二：  
幸せを運んだコウノトリさん  
悲しみから喜びへのケースワーク  
児童研究、73巻、81p、1994、

## ま と め

- 1) 望まない若年妊娠を防ぐための具体案として、青少年の相談に応じ、彼等の性に対する知識獲得の場を提供し、既存の諸施設との全国的な連携・拡張を志した。

結果的には、目的とする若年者の来所は少なく、むしろ若年者を支援する立場の人々の来所が見られた。支援者たちの要求度の高いことを逆に発展の窓口にするとともに、若年者に対するPRの工夫が必要かと思われる。

有機的なつながり、ネットワークに関しては、思春期問題に関する各地の要求度が高いこと、女性センターなどのウーマンパワー、リプロダクティブ・ヘルスの考えetc. を活用できる時期に来ていると思う。

現に、相談室は豊島区の女性青少年課の好意と旧班員の奉仕により、班研究終了後も区立男女平等推進センター（女性センター）の一隅で継続開催されている。

- 2) 同じく、コンドーム・妊娠検査薬・その他を介し、青少年の性の問題に関わることの多い薬剤師に注目した。薬局に現れたときが若年者の妊娠・医療・福祉への接点にならないだろうか。しかし、店頭で配布するパンフレットが若者の心理を読み取っていなかったこと、地域差・薬剤師の意識の差によりその反応はあまり見られなかった。

今後、パンフレットの内容の改定、若者の集まる所を狙った重点的配布、夏休み・春休み後というシーズン性を狙った配布時期etc. まだ検討の余地はあると思う。

薬学教育・薬剤師会の中に、思春期問題への

関心呼び起こし協力を求めたい。

- 3) 高校および大学における性行動・性知識・性教育に関する調査を見ると、人工妊娠中絶増加間違いなしという印象である。

統計上、十代の人工妊娠中絶数が増加傾向にあるとはいえ、依然として中絶数のトップは生み終えた年代（30才後半）である。しかし、20～25才代の動向のほうが気になる。彼等より上の年代の中絶数の減少傾向に比し、その傾きは緩やかで、むしろ横ばい増加傾向のように見える。社会人・大学生としてスタートをきる非婚・未婚の年代である。

妊娠・人工中絶にいたる無責任な行動の歯止めとして性教育の充実は必要かつ急を要する問題である。

妊娠・人工妊娠中絶・性感染症・避妊相談等、現実の問題として実感し、悩み、対処しているのは健康管理に関わる看護婦・保健婦・助産婦・養護教諭たちである。特に思春期への関心の薄い校長・医師・事務職（その多くは男性）が上司の場合、問題は多い。彼女等の働きやすい場、ネットワーク作り等、側面からの支援が必要である。

また、恐るべきことに、次代を育む立場にある教職課程を選ぶ者に、性に関する教科を設けている大学は少ない。性教育を授業で実行しなくてはいけない者が、自己の性の自認さえ出来ないままに社会に送り出されるのである。学生そのものへの責任はおろか、やがてその指導下に置かれる小・中・高校生への布石として見逃すことは許されない。

特にこれまでの養護教諭は、臨床の経験ある保健婦・看護婦・助産婦たちの占める割合が多かったが、制度の改革とともに大学卒ではあるがからだの知識の乏しい人の占める割合が増えている。是非、性に関する知識・性の大切さを学ぶ機会を彼等自身のためにも与えてほしいと思う。

- 4) 学校教育（文部省）を軸に、側面から産婦人科その他の医師・看護・心理、各方面の協力が必要である。校医・協力医など以前より提案されていた思春期問題がより具体化され実現される時期に来ているように思う。

子供達・学校・家庭の現状とニーズを知らねばならない。調査の結果では、思春期外来へ子供達からの要望はかなり厳しい。

開業医・勤務医としては今までと異なる対応が必要であり、これに対して、研修を重ね、思春期問題に取り組んでいる事を院内に標榜する等、青少年および家族への接近に意欲的である。また、教育委員会・学校保健医会などと共に、2~3年来、モデル地区での思春期問題を検討している産婦人科医グループもあり、その成果が期待される。

5) 妊娠してしまった場合の支援組織については、各保護施設の個々の症例の分析、長野市保健所保健婦による聞き取り調査。緻密な調

査により若年出産者が抱える諸問題が浮上し、やはり暖かい保護の手が妊娠初期から必要であり、乳児院・産科医の連携プレー・養子縁組の出生直後からの取組みなど広範囲な諸問題の解決、協力が必要になる。

山中の経験したハワイ州における思春期妊娠に対する相談援助事業は、1985年、既に単発的な試行錯誤を過ぎ、発展・整備されている。国状の差は大きい、確実に増えている若年層の性体験、思春期を少し過ぎた非婚・未婚の若者の妊娠・人工妊娠中絶・STD蔓延に対し参考にするところは多い。

相談援助期間の増加拡充と同じ位、相談技法の科学研究が必要である。同時に、各人の自己決定権を確立すること。そのためには、幼児期からの自己認識と正しい性知識の獲得が必要である。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

この研究は、平成 5 年度厚生省心身障害研究「REPRODUCTIVE HEALTH に関する研究」を構成する分担研究「思春期における性行動に関する研究」(分担研究者・堀口雅子)の一部として、堀口雅子のもとで、黒島淳子ほか 9 名の研究協力者からなる研究グループ(黒島淳子・安達映子・大坂多恵子・兼松左知子・庄司洋子・長池博子・翠川洋子・村井美紀・山中京子・湯沢直美)によって行われたものである。なお、調査の一部は、長野県松本保健所(所長・翠川洋子)の協力を得て、そこにおける研究グループとの共同調査として実施した。また、調査研究全体のまとめにあたっては、杉田恵美(東洋大学大学院社会学研究科)・原史子(立教大学大学院社会学研究科)の協力を得ている。